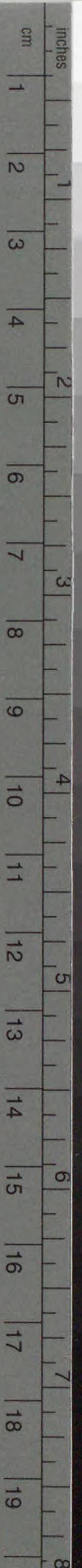


# Kodak Gray Scale



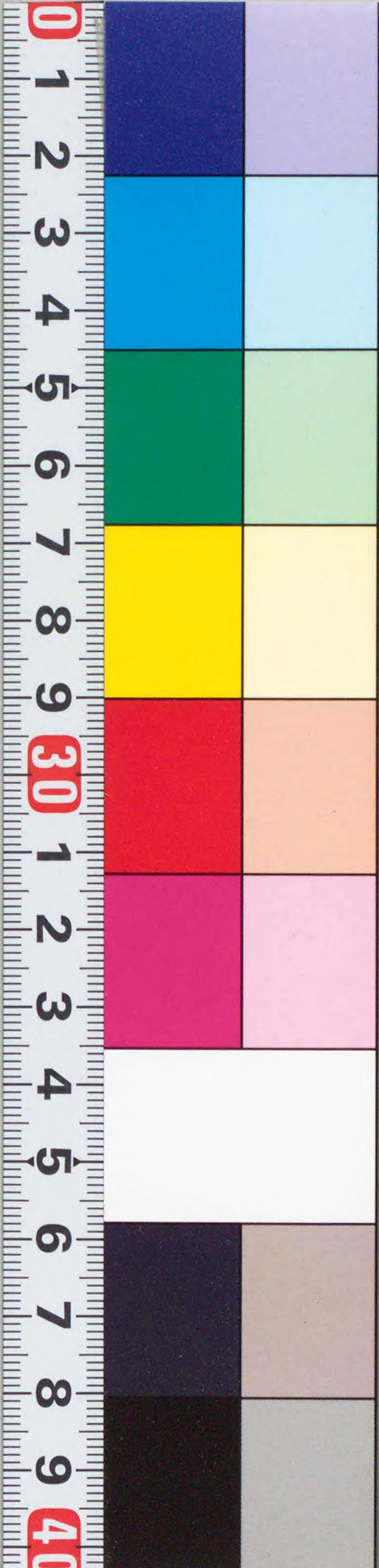
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

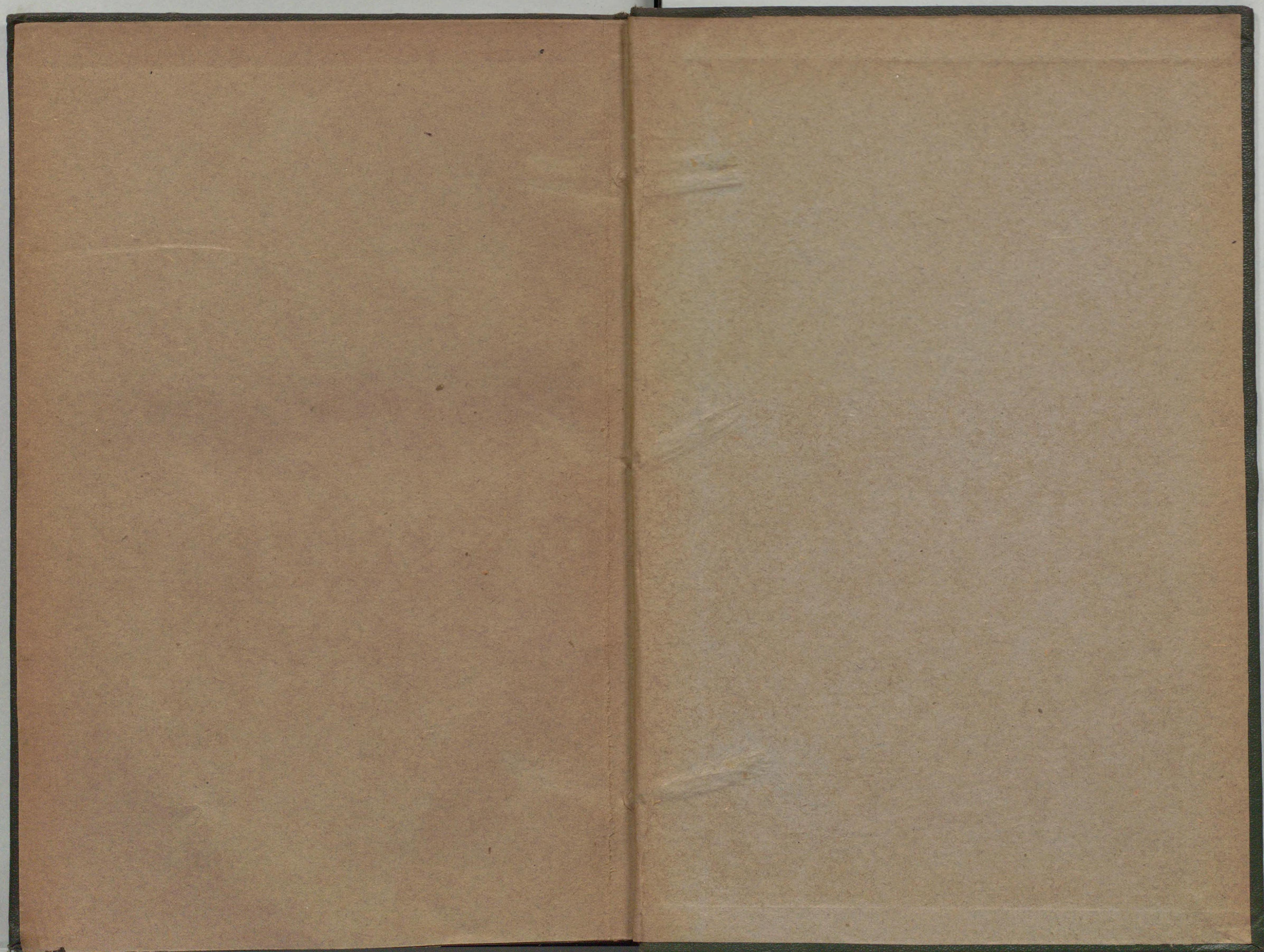
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



143  
5L

BZ-5-01  
\*1200901600171\*





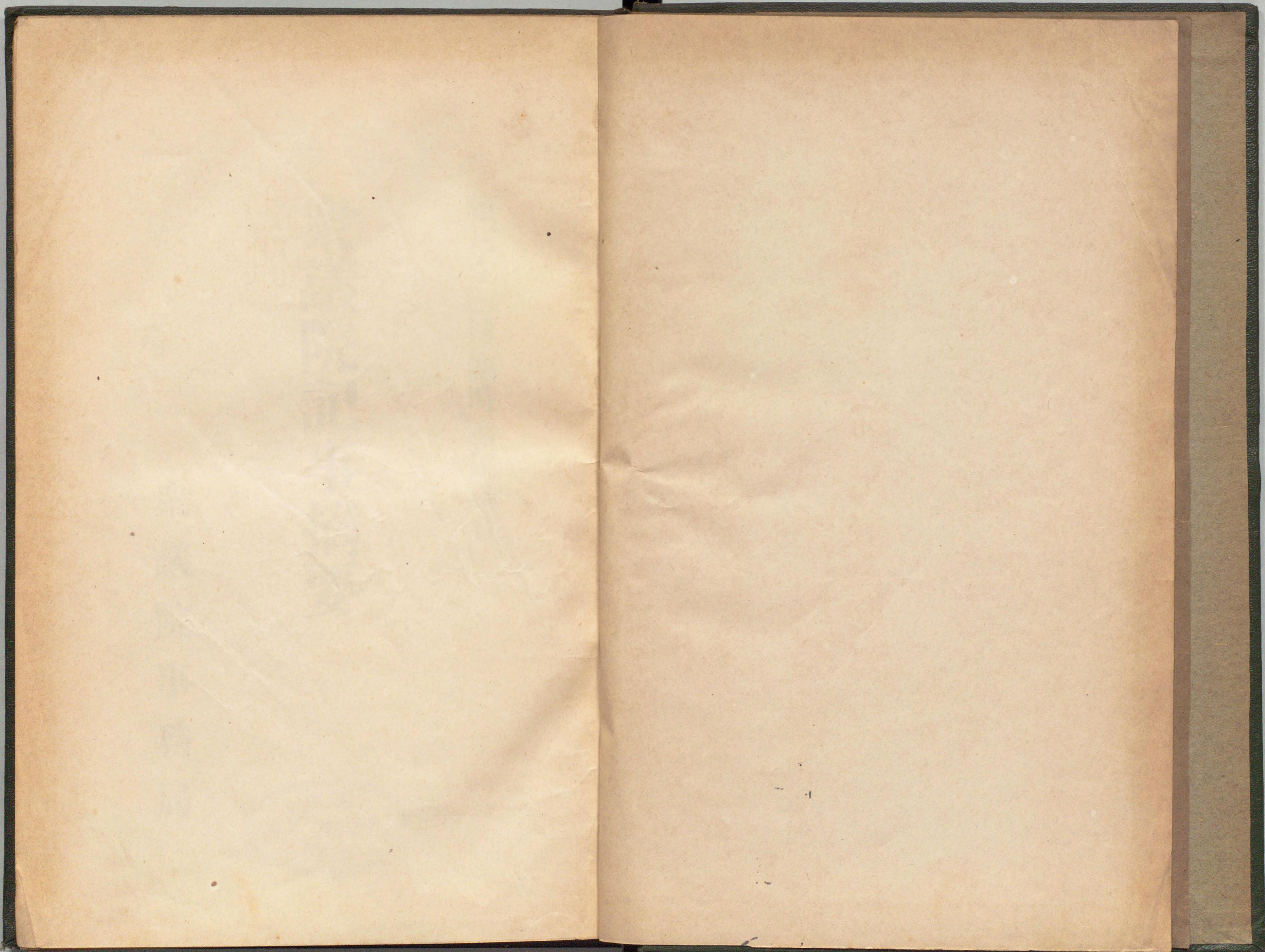


143  
5/1=

第卅二回(臨時)  
帝國議會

衆議院記事摘要







第三十二回(臨時)帝國議會



衆議院記事摘要

衆議院事務局





BZ  
5  
01

第卅二回(臨時)國會衆議院記事摘要

目次

第一章	召集、成立、開會及閉會	一頁
第二章	議長席	三
第三章	議員	三
第四章	全院委員長、常任委員及特別委員	一九
第五章	內閣	一九
第六章	議事	二〇
一	開院式 勅語奉答文案	二一
二	大正三年度歲入歲出總豫算追加案	二二

目次

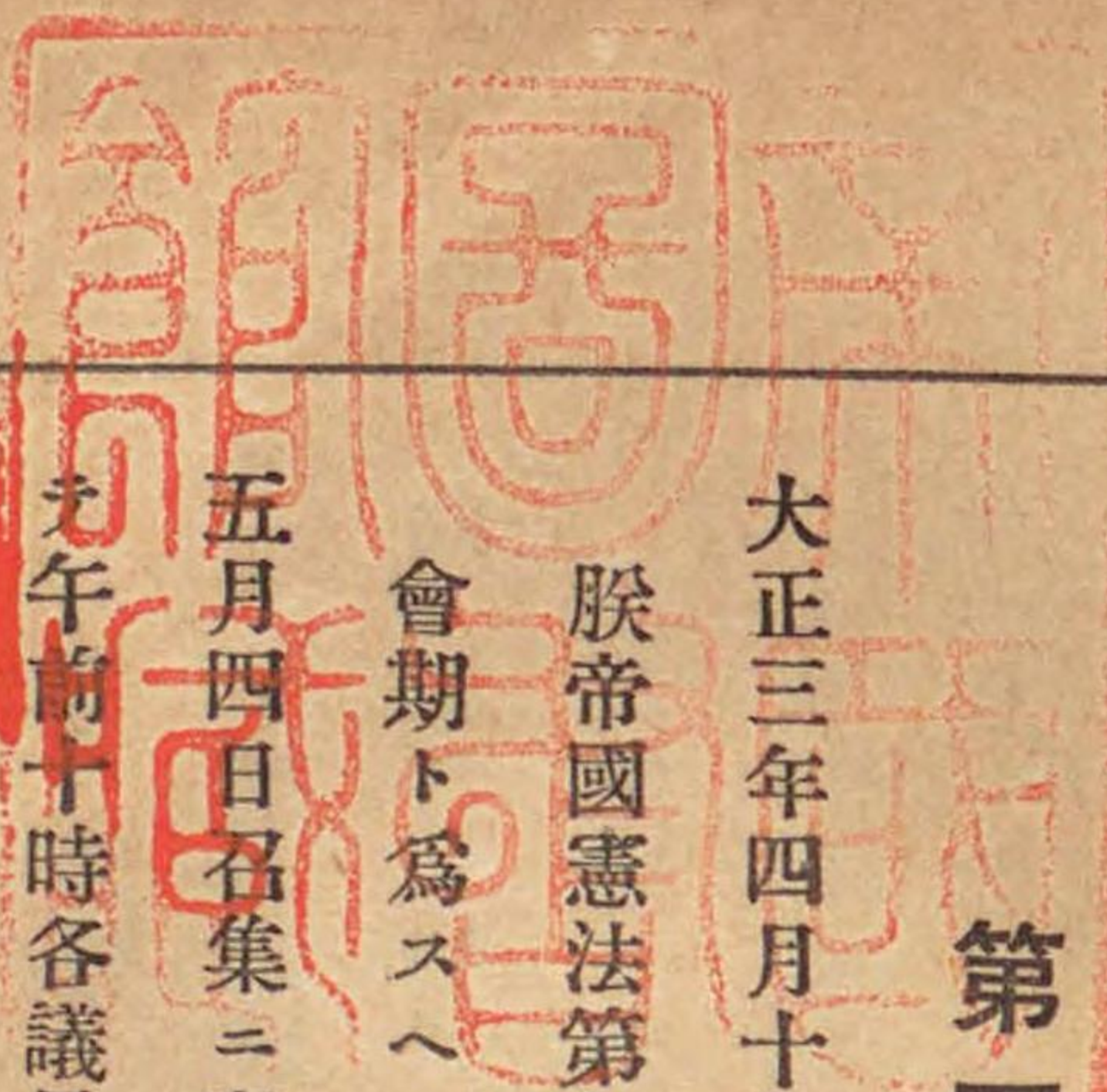


衆議院記事摘要

第一章 召集、成立、開會及閉會

大正三年四月十七日臨時帝國議會召集ノ 詔書ヲ發セラル即チ左ノ如シ

朕帝國憲法第七條及第四十三條ニ依リ本年五月四日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集シ三日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス



五月四日召集ニ應シタル議員三百三十九名ニシテ補闕選舉ニ當選セル議員ハ當選證書ノ對照ヲ經テ午前十時各議員議場ニ參集ス議長奥繁三郎君ハ衆議院規則第十八條ニ依リ議席及部屬ハ第三十  
一回議會ノ通繼續スル旨ヲ宣告シ尙部長、理事モ前議會ノ通選舉セラレタルモノト認ムルコトト爲リ茲ニ本院成立シタルヲ以テ即日其ノ旨ヲ政府及貴族院ニ通報シタリ

議院成立スルヤ同日憲法第七條及議院法第五條ニ依リ五月五日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命セラレ當日兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院ノ式ヲ舉行セラル大隈內閣總理大臣 勅旨ヲ奉シ左ノ勅語ヲ捧讀セリ

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕今皇妣大喪ノ儀ヲ行ハムトスルニ方リ國務大臣ニ命シテ之ニ關スル豫算案ヲ提出セシム卿等



審議以テ協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

本院ハ式後直ニ開院式 勅語ニ對スル奉答文ヲ議決シ翌日議長參内鳳凰ノ間ニ於テ宮内大臣ヲ經テ左ノ奉答書ヲ捧呈シタリ

衆議院議長 臣奧繁三郎誠惶誠恐謹ミテ奏ス恭ク惟ニ

皇太后陛下坤德克ク乾猷ヲ補ヒ惠澤克ク蒼生ヲ霑ス中外瞻仰億兆欽慕セサルナシ何ソ圖ラム今

奄ニ登遐シタマフ 臣等哀悼悲痛措ク所ヲ知ラス

陛下睿明至孝茲ニ臨時帝國議會ノ開會ヲ命シ 聖詔ヲ賜ヒテ大喪ノ費用ヲ議定セシメタマフ

臣等恐懼ノ至ニ勝ヘス 臣等肅ミテ 聖旨ヲ奉體シ慎重審議以テ國民ノ至誠ヲ表シ奉ラムコト

ヲ期ス衆議院議長 臣奧繁三郎誠惶誠恐謹ミテ奏ス

此ノ奉答ニ對シ更ニ左ノ 勅語ヲ賜ヘリ

朕衆議院ノ深厚ナル敬禮ヲ嘉ス

六日大隈内閣總理大臣ヨリ本月八日ヲ以テ閉會式執行仰出サレタル旨ノ通牒アリ當日議院法第三十六條ニ依リ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ閉會ノ式ヲ行ハセラル同内閣總理大臣 勅旨ヲ奉シ左ノ 勅語ヲ捧讀シタリ

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕本日ヲ以テ帝國議會ノ閉會ヲ命シ併セテ卿等勵精克ク協贊ノ任ヲ竭セルノ勞ヲ嘉獎ス

本會期ニ於テ會議ヲ開キタルハ開院式當日及翌日ノ二日ニシテ議案全部ヲ議了セリ(但シ開院式前ノ會合一回ハ之ヲ除ク)

## 第二章 議長席

本會期ニ於テハ前會期ヨリ引續キ議長奧繁三郎君、副議長關直彦君在任セリ而シテ本會期ハ頗ル短期ナリシヲ以テ關副議長ノ代理ヲ見ルコトナカリキ

## 第三章 議員

本會期ニ於ケル議員ノ氏名ハ左表ノ如シ(便宜ノ爲府縣順「いろは」別トシ氏名ノ上ニ議席、部屬、選舉區及黨派別ヲ掲ク、黨派欄内政ハ立憲政友會、國ハ立憲國民黨、同ハ立憲同志會、中ハ



中正會、無ハ無所屬ノ略ナリ

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一〇二	八	東京市	政	稻茂登三郎君
六二	八	大阪市	中	岩下清周君
四〇	三	大阪市	中	石橋爲之助君
二六三	一	大阪	同	岩崎安次郎君
三三〇	二	大阪	政	井坂光暉君
一一一	五	神奈川	政	井上篤太郎君
三	一	兵庫	國	伊藤英一君
一二七	八	千葉	政	板倉中君
六九	六	茨城	政	飯田新右衛門君
三七	四	宇都宮市	國	石田仁太郎君
八六	二	栃木	政	石川甚作君
六八	一	奈良	政	岩本平藏君
二〇六	四	四日市市	政	井上敏夫君
七四	九	名古屋市	政	石黒磐君
三三七	五	靜岡	政	伊東要藏君
一八七	理五	靜岡	政	岩崎勳君
一六	三	山梨	國	市川文藏君
一七五	一	長野	政	伊藤大八君
二三〇	七	長野	政	岩岡伊代治君
一四五	八	仙臺市	政	岩崎總十郎君
二一九	三	福島	政	井深彦三郎君
二〇九	三	青森	政	伊藤祐一君
二五	六	山形	國	伊東知也君
三四四	五	秋田市	同	井上廣居君
二五一	四	富山市	政	岩田大中君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三七六	九	島根	同	石田孝吉君
三八	八	岡山	國	犬養毅君
二一三	一	廣島	政	井上角五郎君
一一〇	四	徳島市	政	一坂俊太郎君
二六五	九	熊本	同	井手三郎君
三二八	六	京都市	無	濱岡光哲君
三七七	一	對馬	同	早川鐵冶君
二〇〇	五	群馬	政	葉住利藏君
二六六	九	茨城	同	原脩次郎君
一一〇	四	茨城	政	濱名信平君
二七	二	三重	國	濱田國松君
一八〇	三	愛知	政	春田祐清君
三六二	九	愛知	同	早川龍介君
一九五	四	岐阜市	政	原眞澄君
二八一	五	隱岐	同	濱本義顯君
七〇	二	尾道市	中	橋本太吉君
九九	三	廣島	中	花井卓藏君
一〇〇	四	廣島	中	早速整爾君
八五	四	山口	政	林永太君
三三八	五	徳島	政	坂東勘五郎君
七九	七	香川	中	林毅陸君
四八	四	佐賀	政	長谷川敬一郎君
一九二	六	宮崎	政	濱田政壯君
一六六	九	熊本	政	原田十衛君



二七〇	一〇六	二一五	四五	三六九	六五	一八	九八	二	一一九	一四八	一五六	一〇七	三四三	八八	二四六
七	二	六	四	九	一	五	三	九	三	六	八	九	七	八	四
鳥取	福井	長野	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	奈良	茨城	水戸	埼玉	新潟	姫路	堺	京都
同	政	政	中	同	中	國	中	國	政	政	政	中	同	中	政
奥田柳藏君	大橋松二郎君	小川平吉君	岡部次郎君	岡崎久次郎君	尾崎元次郎君	大口喜六君	尾崎行雄君	奥山寛平君	太田直次君	小山田信藏君	大島寛爾君	大竹貫一君	大森與三次君	大西五一郎君	岡田泰藏君
三一	一一二	八三		一五三	三一七	三六	二二一	三〇五	四二	一九三	二三八	三六七	二二九	一三一	
三	五	一		六	五	九	四	八	五	七	六	五	八	一	
山口	新潟市	横濱市	(わ)	鹿兒島	福岡	福岡	高知	高知	高松市	徳島	和歌山	山口	山口	島根	
政	政	政		政	同	國	政	同	中	政	政	同	政	政	
渡邊祐策君	若杉喜三郎君	若尾幾造君		奥田榮之進君	大原義剛君	大内暢三君	岡田榮君	大石正己君	小田知周君	大久保弁太郎君	岡崎邦輔君	小河源一君	大岡育造君	小川藏次郎君	

一一二	三二二	一五二	二六一	二九七	五五	二二二	三二七		三七二	一二六	一七	一〇九	議席	
長八	六	理七	二	五	二	六	七			六	二	二	部屬	
鳥取	山形	福島	山梨	長崎	長崎	大阪	東京市	(ほ)	佐賀	和歌山	岡山	鳥取	選挙区	
政	政	政	政	同	政	政	無		同	政	國	政	黨派	
法橋善作君	細梅三郎君	堀切善兵衛君	堀内啓治君	本田恆之君	帆足隼太郎君	本出保太郎君	星野錫君		西英太郎君	西風重遠君	西村丹治郎君	西谷金藏君	氏名	
二四八		一七二		一六三	二三五	一一六	一九四	二八八	九五	四	二二	一一三	議席	
議長				二	七	一	四	三	八	八	三	二	七	部屬
京都	(を、お)	山形	(ち)	鹿兒島	鹿兒島市	福岡	小倉市	高知	下關市	岡山	金澤市	山形市	栃木	選挙区
政		政		政	政	政	政	同	政	國	政	政	政	黨派
奥繁三郎君		長晴登君		床次竹二郎君	飛岡卯一郎君	富安保太郎君	友枝梅次郎君	富田幸次郎君	土井重吉君	豊福泰造君	戸水寛人君	戸狩權之助君	友常穀三郎君	氏名



一四四	一八五	六四	二六〇	三三三	三二	二六	二五〇	一八九	七六	一二	三二九	一二五				
二	八	一	六	長九	四	一	九	三	八	六	一	理九				
新瀨	新潟	長崎	兵庫	京都	東京	東京市	栃木	滋賀	福島	石川	福岡	福岡				
政	政	中	政	政	國	國	同	政	政	國	政	政				
田邊熊一君	高橋光威君	田川大吉郎君	高鍋篤郎君	田中數之助君	高木正年君	高木益太郎君	横尾輝吉君	吉原祐太郎君	吉田虎之助君	吉田定之助君	吉田圓助君	米田穰君	吉原正隆君			
二七二	九二	二七一	九一	二一〇	二二七	一五一	二四三	一二九	九六	八二	一五	五六	六七			
一	八	四	二	八	一	二	四	九	四	三	五	一	長一			
愛媛	松山市	島根	富山	富山	福井	秋田	前橋市	群馬	栃木	愛知	静岡	岐阜	宮城			
同	中	同	中	政	政	政	政	政	政	中	國	中	政			
武内作平君	高野金重君	高橋久次郎君	田中清文君	武部其文君	高島茂平君	田中隆三君	田中左司馬君	竹越與三郎君	高津仲次郎君	田村順之助君	田中善立君	高柳覺太郎君	高橋義信君	田代進四郎君	竹村欽次郎君	田中隆三君

二四〇	二七七	三七九	三三一	一四六	三五四	二四	四六	一七一	三五	二三六	一四七	三四七
二	八	九	八	七	七	七	九	七	三	三	八	七
兵庫	新潟	新潟	新潟	埼玉	埼玉	千葉	千葉	三重	三重	長野市	愛媛	熊本
政	同	同	政	政	同	國	中	政	同	政	政	同
改野耕三君	川合直次君	川上淳一郎君	加藤勝彌君	粕谷義三君	加藤政之助君	柏原文太郎君	加瀬禧逸君	川村一暉君	加賀卯之吉君	笠原忠造君	渡邊修君	渡邊國重君
一六九	三〇八	四九	二四二	二九〇	二八四	三三二	一四	一六八	一四	一六八	八〇	三六〇
五	六	八	五	八	五	六	七	五	七	五	六	長二
廣島	山口	徳島	高知	福岡	佐賀	佐賀	兵庫	長崎	千葉	栃木	長野	福島
國	政	政	同	政	政	政	同	政	政	政	中	同
河野廣中君	金子圭介君	金子圭介君	川真田徳三郎君	片岡直温君	加藤新次郎君	川原茂輔君	狩野雄一君	横田孝史君	横山寅一郎君	吉植庄一郎君	横田千之助君	風間禮助君



二五八	(5)						(6)						
八	六	七	一	五	五	三	六	二	三	四	五	六	七
東京	愛媛	宮城	大津市	奈良	群馬	大阪市	東京	福岡	徳島	和歌山	滋賀	奈良	奈良
政	國	同	中	政	政	國	政	政	中	政	國	國	國
漆昌巖君	村松恆一郎君	村松龜一郎君	村田虎次郎君	村井善四郎君	武金吉君	紫安新九郎君	村野常右衛門君	永江純一君	中川虎之助君	中村啓次郎君	中小路與平治君	中山梅治郎君	中山梅治郎君
六六	三三九	一三九	三四七	三五八	一七四	二九八	一四一	三五	二二一	二八六	一七〇	一五五	一五五
九	四	三	二	七	九	六	一	八	八	五	四	五	五
青森	巖手	若松市	東京市	東京市	福岡	富山	長崎	神戸市	富山	千葉	千葉	大阪	大阪
政	政	政	同	同	政	同	政	國	政	同	政	政	政
工藤善太郎君	工藤吉次君	日下義雄君	黒須龍太郎君	藏原惟郭君	野田卯太郎君	野村嘉六君	則元由庸君	野添宗三君	上埜安太郎君	鶴澤宇八君	鶴澤總明君	植場平君	植場平君

一三三	九四	三六〇	(7)						(8)									
七	六	二	二	五	二	五	八	二	二	八	二	二	七	七	七	七	七	
島根	青森	三重	北海道	秋田	北海道	秋田	京都府	大阪府	京都府	大阪府	京都府	山梨	茨城	群馬	群馬	群馬	群馬	
政	政	同	政	同	政	同	無	同	無	同	同	同	政	政	政	政	政	
恆松隆慶君	津島源右衛門君	辻寛君	園田實徳君	添田飛雄太郎君	園田實徳君	添田飛雄太郎君	中安信三郎君	中辰之助君	永見寛二君	中倉万次郎君	中野貫一君	長島鷺太郎君	根津嘉一郎君	根本正君	根岸曙太郎君	根岸曙太郎君	鶴原定吉君	津末良介君
二二四	三四一	一四三	二六八	三三五	一〇四	三三五	二八八	二六八	二六八	二六八	二六八	二六八	三六一	二三四	二〇七	三五〇	一六四	一六四
三	三	三	二	八	二	八	二	二	二	二	二	二	七	四	七	理八	六	六
千葉	新潟	長崎	長崎	大阪	京都	京都	京都	京都	京都	京都	京都	京都	山梨	茨城	群馬	大分	福岡	福岡
政	同	政	政	無	同	無	同	同	同	同	同	同	同	政	政	同	政	政
長島鷺太郎君	中野貫一君	中倉万次郎君	永見寛二君	中辰之助君	中安信三郎君	中安信三郎君	中辰之助君	永見寛二君	中倉万次郎君	中野貫一君	長島鷺太郎君	長島鷺太郎君	根津嘉一郎君	根本正君	根岸曙太郎君	根岸曙太郎君	鶴原定吉君	津末良介君







二四九	一二三	二七四	二〇五	一五四	一七三	一八一	一四九	二五六	一七八	二八九	二九九	三五二
一	九	七	四	八	長五	二	四	七	一	九	一	九
秋田	山形	巖手	宮城	岐阜	甲府市	埼玉	埼玉	埼玉	新潟	新潟	兵庫	札幌區
政	政	同	政	政	政	政	政	政	政	同	同	同
紳田清兵衛君	佐藤信古君	柵瀬軍之佐君	澤來太郎君	佐々木文一君	佐竹作太郎君	齋藤珪次君	齋藤安雄君	指田義雄君	佐野喜平太君	坂口仁一郎君	齋藤隆夫君	淺羽靖君
二二四	二	鹿兒島	沖繩	北海道	大分	高岡市	弘前市	大分市	京都	三六三	三八	三二八
二	二	鹿兒島	沖繩	北海道	大分	高岡市	弘前市	大分市	京都	七	八	八
政	政	政	政	同	政	中	中	同	同	愛媛	岡山	秋田
柚木慶二君	岸本賀昌君	木下成太郎君	木下謙次郎君	木津太郎平君	菊池武德君	菊池侃二君	木村良君	齋藤宇一郎君	坂本金彌君	佐々木仙一君	阪本彌一郎君	才賀藤吉君

一五八	九	山梨	政	手塚正次君	一八二	二二六	三一五	一八二	三一一	五二	二四五	七七	一六一	議席	
(あ)	(て)	(え、お)	政	江藤哲藏君	二	五	九	六	三	六	四	六	三	部屬	
熊本	佐賀市	宮城	無	江副靖臣君	熊本	佐賀市	宮城	和歌山	和歌山	和歌山	米澤市	長野	長野	選舉區	
同	政	政	政	遠藤良吉君	國	政	政	政	政	政	政	政	政	黨派	
安達謙藏君	有馬秀雄君	秋田清君	有田溫三君	荒川五郎君	有森新吉君	相川久太郎君	阿部德三郎君	青地雄太郎君	安東敏之君	阿由葉鎗三郎君	相島勘次郎君	綾部惣兵衛君	安藤新太郎君	氏名	
三〇三	一八三	三八一	五八	三五六	六	八四	二二八	三三	三五七	四七	三四	二八〇	二五三	三一〇	議席
三	五	六	七	八	四	三	六	二	二	五	八	三	六	一	部屬
熊本	久留米市	德島	廣島	廣島	岡山市	石川	巖手	靜岡	名古屋市	栃木	茨城	埼玉	兵庫	大阪	選舉區
同	政	同	中	同	國	政	政	國	同	中	國	同	政	政	黨派
安達謙藏君	有馬秀雄君	秋田清君	有田溫三君	荒川五郎君	有森新吉君	相川久太郎君	阿部德三郎君	青地雄太郎君	安東敏之君	阿由葉鎗三郎君	相島勘次郎君	綾部惣兵衛君	安藤新太郎君	秋岡義一君	氏名



八七	三	東	京	政	森久保作藏君	三三〇	九	東	京	政	望月右内君
七二	七	函	館	區	平出喜三郎君	二六七	二	熊	本	同	守山又三君
一〇一	七	鹿	兒	島	肥後靜雄君	一六五	五	大	分	政	元田肇君
三二四	一	鹿	兒	島	平田禎君	一六二	九	廣	島	政	望月圭介君
三二六	七	宮	崎	無	肥田景之君	二六七	三	廣	島	政	森田俊左君
一三八	九	福	岡	政	樋口典常君	一六二	三	廣	島	政	望月圭介君
二二三	一	門	司	市	土方千種君	二四四	一	岡	山	同	守屋此助君
二四七	五	青	森	市	廣澤辨二君	二四四	三	富	山	同	森田小六郎君
七五	四	青	森	市	樋口喜輔君	九	一	富	山	同	森川源吾君
二〇	八	滋	賀	國	人見米次郎君	二七九	九	滋	賀	政	森丘覺平君
一七六	五	群	馬	政	日向輝武君	一九八	六	滋	賀	政	森川源吾君
一九	二	兵	庫	國	平野龜之助君	八一	三	愛	知	中	森田小六郎君
三四九	八	京	都	市	平井熊三郎君	一六〇	八	三	重	政	森茂生君

三〇七	三	大	分	同	箕浦勝人君	一一八	五	鹿	兒	島	政	志々目藤彦君
二〇一	一	高	知	市	光森徳治君	一三六	二	高	知	政	白石直治君	
一四二	九	香	川	政	三土忠造君	三七一	六	愛	媛	同	清水隆徳君	
一二四	四	秋	田	政	三浦盛徳君	六一	一	丸	龜	市	白川友一君	
二六二	一	長	野	政	翠川鐵三君	二二三	九	島	根	政	島田俊雄君	
二八二	三	愛	知	同	三浦逸平君	一四	九	滋	賀	國	柴田源左衛門君	
二〇二	七	愛	知	政	三輪市太郎君	二一一	三	愛	知	政	清水市太郎君	
一五〇	七	茨	城	政	宮古啓三郎君	三五五	八	神	奈	川	神藤才一君	
三七〇	九	兵	庫	同	水野正己君	三〇四	七	横	濱	市	島田三郎君	
二一七	九	大	阪	市	三谷軌秀君	二六九	四	大	阪	市	七里清介君	
七一	七	東	京	市	三輪信次郎君	二二	理	一	京	都	清水仁三郎君	



議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二五四	八	宮崎	政	瀬戸山清彦君	二九二	三	静岡	同	杉山東太郎君
(す)					二四一	二	宮城	政	菅原傳君
二八	六	東京市	國	鈴木梅四郎君	二七六	九	福島	同	鈴木萬次郎君
二六四	六	群馬	同	須藤嘉吉君	二七三	三	福島	同	鈴木寅彦君
二八三	九	愛知	同	鈴置倉次郎君	一三五	一	巖手	政	鈴木巖君

召集前辭職シタル者一名、死去シタル者二名アリ即チ北海道函館外一支廳管内選出内山吉太君ハ大正三年三月二十六日ヲ以テ辭職シ、岐阜縣郡部選出大野龜三郎君ハ同年四月七日、東京府東京市選出中島行孝君ハ同年五月一日死去シタリ

右ニ對シ議長ハ議院法第八十四條ニ依リ補闕選舉ヲ請求シ園田實徳君(北海道函館外)ハ四月二十二日、坂口拙三君(岐阜郡部)ハ五月五日孰レモ衆議院議員選舉法第七十八條第二項ニ依リ補闕當選シタリ四月七日大野龜三郎君、五月一日中島行孝君ノ遺族ニ對シ例ニ依リ議長ハ弔詞ヲ贈リタリ

### 第四章 全院委員長、常任委員及特別委員

本會期ニ於テハ全院委員長及常任委員ノ選舉手續ヲ省略シ前議會ノ全院委員長及常任委員ヲ其ノ儘選舉シタルモノト認メ又委員長及理事モ前同斷之ヲ認メタリ但シ常任委員ハ其ノ闕員アルモ必要ヲ生スル迄之カ補闕ヲ爲ササルコトトシタリ又本會期中特別委員ノ選舉ヲ行ヒタルハ開院式 勅語ニ對スル奉答文起草ノ件一アルノミ其ノ選舉方法ハ議長指名ニ係リ開會數ハ一回ナリ

### 第五章 內閣

山本內閣ハ大正三年四月十六日ヲ以テ總辭職ヲ爲シ大隈伯爵內閣ヲ組織ス其ノ閣員ハ左ノ如シ

內閣總理大臣兼	伯爵	大隈重信君
內務大臣	大臣	大隈重信君
農商務大臣	子爵	大浦兼武君
外務大臣	男爵	加藤高明君



陸軍大臣	岡市之助君
海軍大臣	八代六郎君
大藏大臣	若槻禮次郎君
文部大臣	若槻禮次郎君
司法大臣	尾崎行雄君
逓信大臣	武富時敏君

三年五月四日(召集當日)本會期ニ於ケル政府委員トシテ左ノ如ク任命セラレタリ

政府委員

大藏省所管事務政府委員

法制局長官	高橋作衛君
大藏次官	濱口雄幸君

第六章 議事

本會期中本院ニ提出セラレタル議案ハ上奏案、豫算追加案各一件ニシテ其ノ經過ハ左ノ如シ

一 開院式 勅語奉答文案

三年五月五日本院ハ開院式ニ賜ハリタル 勅語ニ對シ直ニ奉答文ノ件ヲ院議ニ付シ議長指名十八名ノ起草委員ヲ設ケ委員ノ起草了ルヤ會議ヲ再開シ委員長元田肇君ハ左ノ報告ヲ爲ス

諸君、本員ハ茲ニ謹デ奉答文起草委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、吾々帝國臣民ハ曩ニハ明治天皇御登遐アラセラル、ノ不幸ニ遭ヒマシテ、今又 皇太后陛下ノ御崩御アラセラル、ニ遭遇致シマシテ、痛恨慟哭ノ至リニ禁ヘヌ次第デアリマス、抑々 先帝明治維新ノ大權ヲ樹テ給ヒマシテ、外ハ國威ヲ八紘ニ輝カサレ、内ハ憲政ヲ布キ内治百般ノ革新ヲ行ハセラレマシタコトハ、今更御威徳ノ宏大ナリシコトニ付キマシテ申スモ畏キ次第デアリマス、此御大業ヲ樹テ給ハリマシタコトニ付キマシテ、恐レ多キ次第デアリマス、皇太后陛下ノ御坤徳克ク御補翼遊バサレマシタコトハ、如何バカリデアツタカト常ニ感泣致シテ居ル次第デアリマス、吾々ハ先帝ノ御登遐遊バサセラレシ不幸ニ遭ヒマシテモ 皇太后陛下ノ尙御健カニ在ラセラル、コトヲ拜シマシテ、竊ニ無上ノ恐悅ヲ悃ビ奉ツテ居ツタ次第デアリマス、然ルニ今ハ何事デアリマセウカ、此至仁至慈ノ 皇太后陛下ヲ奉送スルノ不幸ニ遭遇致シマシテ 上陛下ノ御宸衷ノ程恐察シ奉ルニ堪ヘマセヌ、又下國民ノ哀悼ノ至情ハ言辭ニ盡ス能ハザルトコロデアリマス、仍テ吾々委員ハ先ツ委員長理事ヲ互選致シマシテ、不肖委員長ニ、花井卓藏君理事ニ當選致シマシタ、後續イテ起草文ノ議事ニ移リ、最モ恐懼慎重ニ審議ヲ盡シマシテ國民至誠ノ萬一ヲ天聽ニ捧ゲ奉ランコトヲ期シタ次第デアリマス、唯今朗讀ヲ致シマスガ、滿場ノ同僚諸君ハ此至情ヲ一ニシ、一致ヲ以テ可決セラレンコトハ本員等ノ確信スルトコロデアリマス、茲ニ謹デ起草文ヲ朗讀致シマス(奉答文ハ第一章ニ掲ク參看)

次テ總議員ハ起立シテ敬意ヲ表シ全會一致ヲ以テ可決シタリ



二 大正三年度歳入歳出總豫算追加案

豫算

大正三年度歳入歳出追加額ヲ各百貳拾參萬參千百八拾四圓ト定ム其ノ款項ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

歳入臨時部

第十款 前年度繰入金 金百貳拾參萬參千百八拾四圓

第一項 前年度繰入金 金百貳拾參萬參千百八拾四圓

歳出臨時部

大藏省所管

第二十一款 大 喪 費 金百貳拾參萬參千百八拾四圓

第一項 大 喪 費 金百貳拾參萬參千百八拾四圓

三年五月五日提出、政府ハ議院法第二十八條但書ニ依リ議定セムコトヲ要求セリ本院ハ翌六日之ヲ院議ニ付シ大隈内閣總理大臣、若槻大藏大臣ハ左ノ演說ヲ爲セリ

大隈内閣總理大臣ノ演說

諸君 先帝ノ陵土未ダ乾カズ、即位ノ大禮尙未ダ行ハセラレザルニ 皇太后陛下遽ニ崩御アラセラレ、此際ニ於テ不肖拙ラズモ大命ヲ拜シ、玆ニ此臨時議會ヲ以テ諸君ト相見ユルニ至リシハ、本大臣ノ諸君ト共ニ誠ニ恐懼ノ至リニ堪ヘザルトコロゴザイマス、恭ミテ惟フニ 皇太后陛下ニ於カセラレマシテハ、國歩艱難ノ際ニ皇后ニ立タセラレマシテ 先帝ヲ翼ケサセ給ヒ、至仁至慈坤德格ラザルナク、億兆齊シク寶算ノ垠リナキヲ禱リ奉リタルニ、奄然登遐アラセラレマシテ寔ニ痛恨措クトコロヲ知ラヌ次第ゴザイマス、諸君、今回ノ大喪儀ニ付テハ曩ニ大喪使ヲ置カレ、職員一同日夜勵精、諸般ノ事務今正ニ進行中ニ在ルノデゴザイマス、之ニ關スル豫算案ハ昨日ヲ以テ之ヲ本院ニ提出致シマシタ、本大臣ハ諸君ガ此際速ニ協賛ヲ與ヘラレ、國民哀悼ノ至誠ヲ表シ奉ルニ於テ、遺憾ナキヲ期セラレンコトヲ希望致シマスルノデアリマス

若槻大藏大臣ノ演說

諸君、玆ニ御大喪ニ關シマスル經費ノ豫算ヲ御紹介致シマスコトハ、寔ニ恐懼ノ至リニ堪ヘナイトコロゴザイマス、御大喪ニ關シマスル經費ト致シテ要求致シマスルトコロノ豫算額ハ、百二十三萬三千八百八十四圓ゴザイマシテ、其内容ハ豫算ノ書類ニ詳カニ記載シテアリマスノデゴザイマス、謹デ按ジマスルニ 皇太后陛下ノ御坤德ハ之ヲ稱ヘ奉ルベキ辭サヘモゴザリマセヌ、今回遽ニ御崩御アラセラレマシタルコトハ、我國民ノ上下舉ツテ痛悼ニ堪ヘザルトコロデアリマス、而シテ今回ノ御大喪儀ハ 先帝陛下ノ御大喪儀ニ準ジ 英照皇太后陛下御大喪ノ前例ヲ參酌シテ行ハセラレマシテ、政府ハ之ニ要スル總テノ經費ヲ計上致シマシテ、是ガ實行ニ付キ遺漏ナイコトヲ期シテ居ル次第ゴザイマス、諸君、冀クハ之ヲ諒セラレテ審議ノ上御協賛アラシコトヲ切望致シマス



附

録

院議委員ノ審査ヲ省略シ全會一致之ヲ可決シ即日貴族院ニ送付ス同院亦全會一致ヲ以テ通過シ七日公布セラレ



衆議院記事摘要附錄

目次

一	議會開閉ニ關スル一覽表	一頁
二	議案經過表	一
三	委員會表	二
四	速記事務一覽表	二
五	議事錄、決議錄並議事日程表	三
六	印刷物表	三
七	傍聽券及傍聽人員表	四
八	院內警察執行事務一覽表	五
九	文書及面會受付表	六
一〇	委員氏名錄	七
一一	本院高等官氏名錄	十五



衆議院記事摘要附錄

一 議會開閉ニ關スル一覽表

選 回 數	詔 書	舉 選 日	詔 書	集 集 日	開 會 日	終 了 日	閉 會 日	會 期 日 數	開 會 日 數
第十 一	明治 四十五 年四月 十七日	同 五月 十五日	大正 三年 四月 十七日	五月 四日	五月 四日	同 月五 日	同 月七 日	同 月八 日	三 日
									一 日

二 議案經過表

件 名	可 決	提 出 者
開院式勅語奉答文案	可決(全會一致)	起草委員
大正三年度歲入歲出總豫算追加案(大藏省所管)	兩院通過(同)	
計	二	



三 委員會表

種別	常任委員				選舉方法	付託件數	報告
	豫算	決算	懲罰	請願			
各部選舉	—	—	—	—	議長指名		
計別委員				四			

(備考)

常任委員ハ選舉手續ヲ省略シ前議會ノ常任委員ヲ其ノ儘選舉シタルモノト認メタリ

四 速記事務一覽表

本會三日	會議ノ日數	會議ノ件數	會議ノ回数	會議ノ總時間	會議一日平均時間	速記總頁數	速記錄一日平均頁數	速記者人員及組數	速記者一組一日平均速記時間	速記者一組一日平均速記頁數
二十四分八分六頁二頁	二十	二十一	二十一	四十八秒	〇頁二					

五 議事錄、決議錄並議事日程表

種別	號	數	期	間
議事錄	一	三	自同大正三年五月六日	至同大正三年五月六日
決議錄	二	三	自同大正三年五月六日	至同大正三年五月六日
議事日程	三	一	大正三年五月六日	

六 印刷物表

種別	件數	冊數 (枚)
豫算案提出文	一	五九七
委員會報告書	一	七八〇

附錄 委員會表 速記事務一覽表 議事錄、決議錄並議事日程表 印刷物表



種別	配付		合計	傍聽
	通	常		
新聞記者				一四三
公衆	七四八	三四〇	一〇八八	五五八
官吏		一七	一七	一三
貴族院議員	五六一		五六一	一七五
交際官		三	三	二
計			一、一〇八	一一、七二二
委員會會議錄			一	一、〇〇〇
衆議院公報			八	八、〇〇〇
議事錄			三	三四五
席次部屬表			一	一、〇〇〇
計			一五	一一、七二二

七 傍聽券及傍聽人員表

八 院内警察執行事務一覽表

項目	種別	件數
計		八九一
傍聽席ニテ冠物又ハ外套ヲ着シタルモノ		三九
傘杖ノ類ヲ携帯シ入場セムトスルモノ		八
特定ノ席ニ他ノ傍聽人ノ入りタルモノ		一〇
席ノ前席ニ直立シテ他人ノ傍聽ヲ妨クルモノ		二八
椅子ニ上リ傍聽スルモノ		六
傍聽人妄リニ廊下ヲ徘徊スルモノ		一九
入場券又ハ通券ナクシテ院内ヲ徘徊スルモノ		三
廊下其ノ他ノ場所ニテ通行ヲ妨ケナスモノ		二
傍聽席ニテ拍手シタルモノ		一

附錄 傍聽券及傍聽人員表 院内警察執行事務一覽表



計	注 意 事 項			
	計	灰及芥捨場	室内、園内、厠、下水其ノ他不潔ノ箇所	携帶品ノ注意ヲ怠リタルモノ
	一一六	一	七	八
				一四
				三〇

九 文書及面會受付表

種 別	書 狀	書 狀	面 會	開 會		中 均 數
				件 數	日 數	
收 受	一 二 六			一	日	二 五、二
發 送		一、八〇二				三六〇、四
會 人			三六一			七二、二
計			二、二八九			四五七、八

一〇 委員氏名錄

本會期中全院委員長、常任委員及特別委員左ノ如シ

○全院委員長

菅原 傳君

○豫算委員

- |     |        |    |                 |                 |        |
|-----|--------|----|-----------------|-----------------|--------|
| 委員長 | 改野耕三君  | 理事 | 井上角五郎君<br>小寺謙吉君 | 小川平吉君<br>鈴木梅四郎君 | 長島鷲太郎君 |
| 第一部 | 井上角五郎君 |    | 翠川鐵三君           | 富安保太郎君          | 福岡精一君  |
|     | 早川鐵治君  |    | 守屋此助君           |                 | 高橋直治君  |
| 第二部 |        |    |                 |                 |        |
|     | 石川甚作君  |    | 戶狩權之助君          | 改野耕三君           | 柚木慶二君  |
|     | 川上淳一郎君 |    | 田川大吉郎君          |                 | 淺羽 靖君  |
| 第三部 |        |    |                 |                 |        |

附錄 文書及面會受付表 委員氏名錄



長島鷺太郎君 日下義雄君 渡邊祐策君 片岡直温君 小寺謙吉君  
金尾稜巖君 渡邊國重君

第四部

友枝梅次郎君 濱本義顯君 小出五郎君 東武君 阪本彌一郎君  
高木正年君 早速整爾君

第五部

武藤金吉君 植場平君 清峯太郎君 木下成太郎君 町田忠治君  
人見米次郎君 尾崎行雄君

第六部

小川平吉君 八木逸郎君 松田源治君 小林源藏君 鈴木萬次郎君  
岡部次郎君 柵瀬軍之佐君

第七部

吉植庄一郎君 三輪市太郎君 麓純義君 島田三郎君 加藤政之助君  
鈴木梅四郎君 八田裕二郎君

第八部

法橋善作君 加藤勝彌君 佐々木文一君 大石正己君 犬養毅君  
久保通猷君 川村曄君

第九部

野田卯太郎君 三谷軌秀君 武富時敏君 岡崎久次郎君 増田義一君  
小山谷藏君 望月圭介君

○決算委員

委員長 粕谷義三君 理事 水間此農夫君 井上篤太郎君 西風重遠君  
紫安新九郎君 荒川五郎君

第一部

平田禎君 松城兵作君 山本七朗君 加瀬禧逸君 井手三郎君

第二部

水間此農夫君 横田孝史君 奥山寛平君 鈴木巖君 佐々木仙一君

第三部

笠原忠造君 横尾輝吉君 辻寛君 中川虎之助君 小坂順造君

第四部

齋藤安雄君 原眞澄君 岩田大中君 加賀卯之吉君 清水仁三郎君

附錄 委員氏名錄



第五部

井上篤太郎君 森田小六郎君

松家徳二君

岩本平藏君

松浦五兵衛君

第六部

加藤新次郎君 西風重遠君

奥田柳藏君

紫安新九郎君

小川藏次郎君

第七部

粕谷義三君 友常穀三郎君

山谷虎三君

菊池武徳君

小林勝民君

第八部

矢野莊三郎君 大島寛爾君

吉田定之助君

竹村欽次郎君

平野龜之助君

第九部

手塚正次君 高津仲次郎君

清水隆徳君

大西五一郎君

荒川五郎君

○懲罰委員

委員長 岩崎總十郎君 理事

丸尾光春君 小西和君

横田千之助君

第一部

丸尾光春君 田代進四郎君

伊東知也君

第二部

岸本賀昌君 井坂光暉君

小河源一君

第三部

春田祐清君 黒須龍太郎君

高野金重君

第四部

長谷川敬一郎君 工藤吉次君

八田裕二郎君

第五部

志々目藤彦君 大原義剛君

岡田泰藏君

第六部

森川源吾君 津島源右衛門君

神藤才一君

第七部

串木康三君 吉田圓助君

菊池侃二君

第八部

岩崎總十郎君 武部其文君

井上廣居君

第九部

小西和君 横田千之助君

矢島八郎君

附錄 委員氏名錄



○請願委員

委員長 渡邊 修君 理事 三浦覺一君 大口喜六君 增田穰三君

第一部

光森德治君 安村竹松君 佐野喜平太君 早川龍介君 中山梅治郎君

第二部

帆足隼太郎君 早川六三郎君 大橋松二郎君 阿由葉鎗三郎君 齋藤宇一郎君

第三部

太田直次君 增田穰三君 須藤嘉吉君 豐福泰造君 松本恒之助君

第四部

武滿義雄君 丸山豐治郎君 林 永太君 原 脩次郎君 平出喜三郎君

第五部

伊東要藏君 葉住利藏君 廣澤辨二君 矢島浦太郎君 大口喜六君

第六部

濱田政壯君 關 信之介君 高鍋篤郎君 高橋久次郎君 才賀藤吉君

第七部

三浦覺一君 川合直次君 國光五郎君 伊藤英一君 岩岡伊代治君

第八部

渡邊 修君 森 茂生君 高嶺朝教君 中安信三郎君 林 毅陸君

第九部

樋口典常君 工藤善太郎君 綾部惣兵衛君 田中左司馬君 大森與三次君

○開院式 勅語奉答文起草ノ件委員

委員長 元田 肇君 理事 花井卓藏君

大岡育造君 村野常右衛門君 岡崎邦輔君 永江純一君 戸水寛人君

鵜澤總明君 白石直治君 小久保喜七君 日下義雄君 河野廣中君

箕浦勝人君 片岡直温君 島田三郎君 犬養 毅君 古島一雄君

菊池侃二君



一一 本院高等官氏名錄

書記官長

林田龜太郎

書記官

議事課長	寺田榮
警務課長	佐々田彰夫
委員課長	
勤務課長	
檢査課長	

委員課長	津久井利行
議事課長	
速記課長	
庶務課長	辛島知己
圖書課長	
館長	



大正三年六月十七日印刷  
大正三年六月十九日發行

衆議院事務局

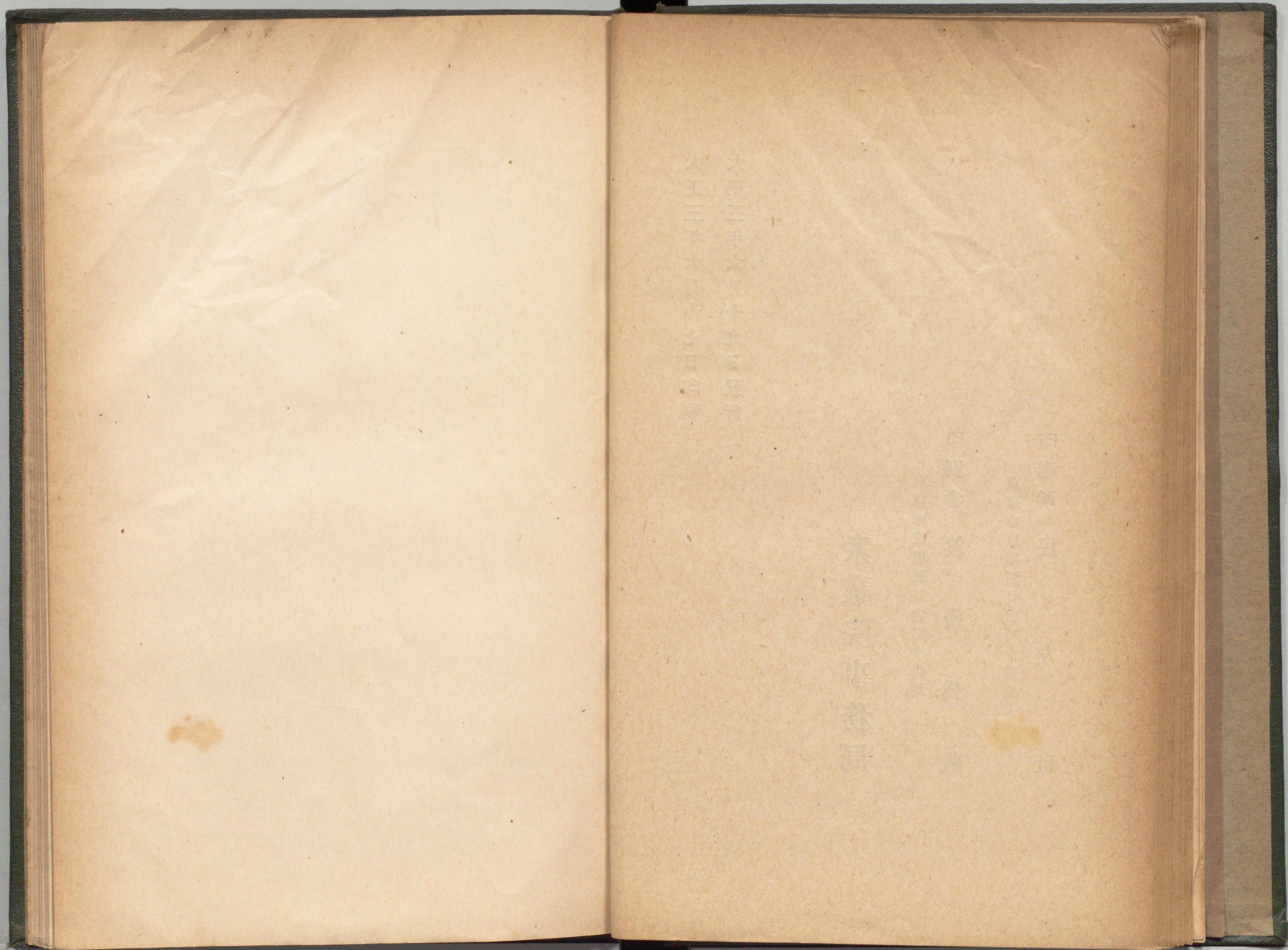
東京市京橋區日吉町十番地

印刷者 渡邊爲藏

東京市京橋區日吉町十番地

印刷所 民友社





大清宣統元年  
三月三日

宣統元年  
三月三日



143  
57=

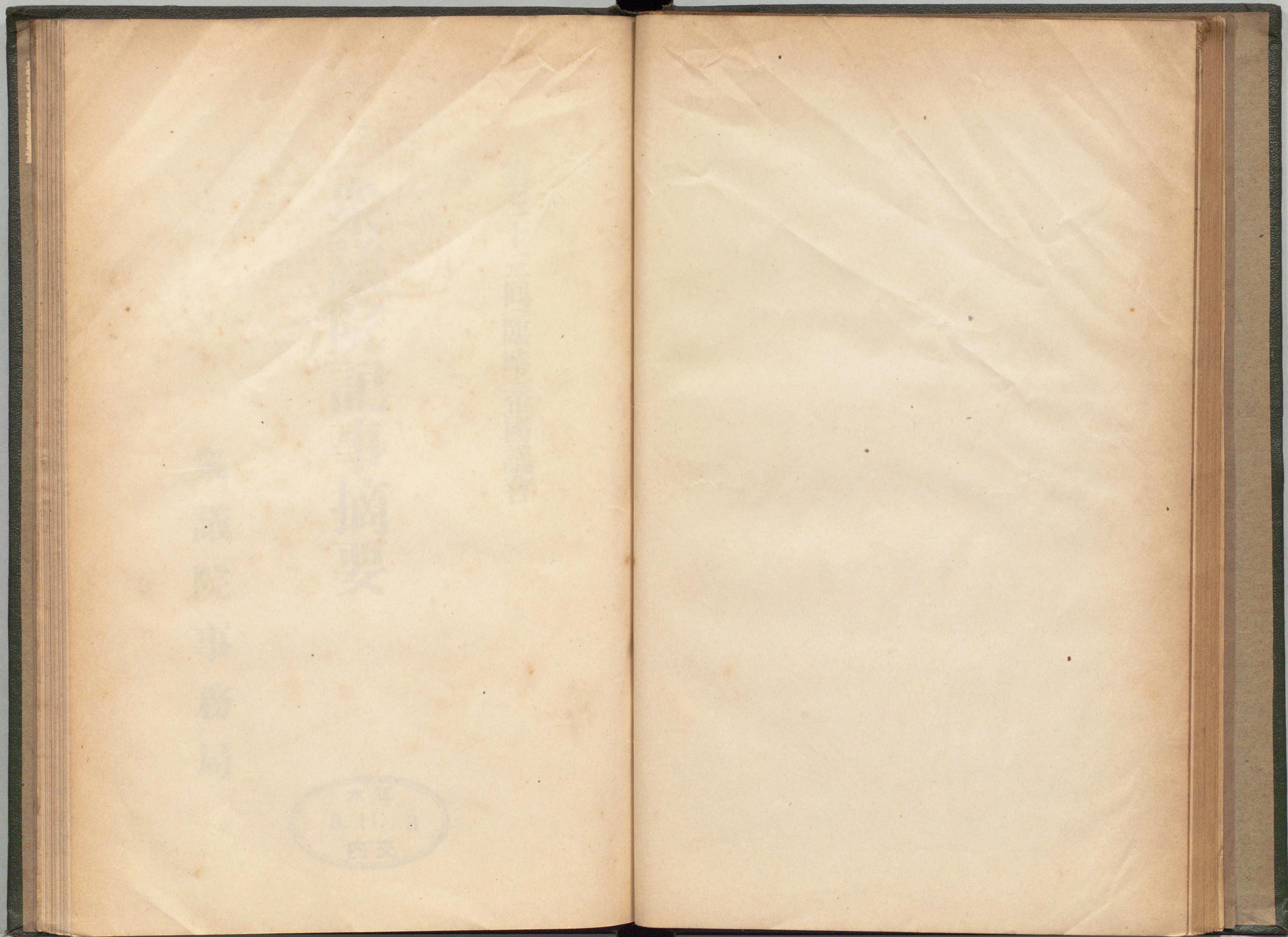


14.3  
51/3

第卅三回(臨時)  
帝國議會

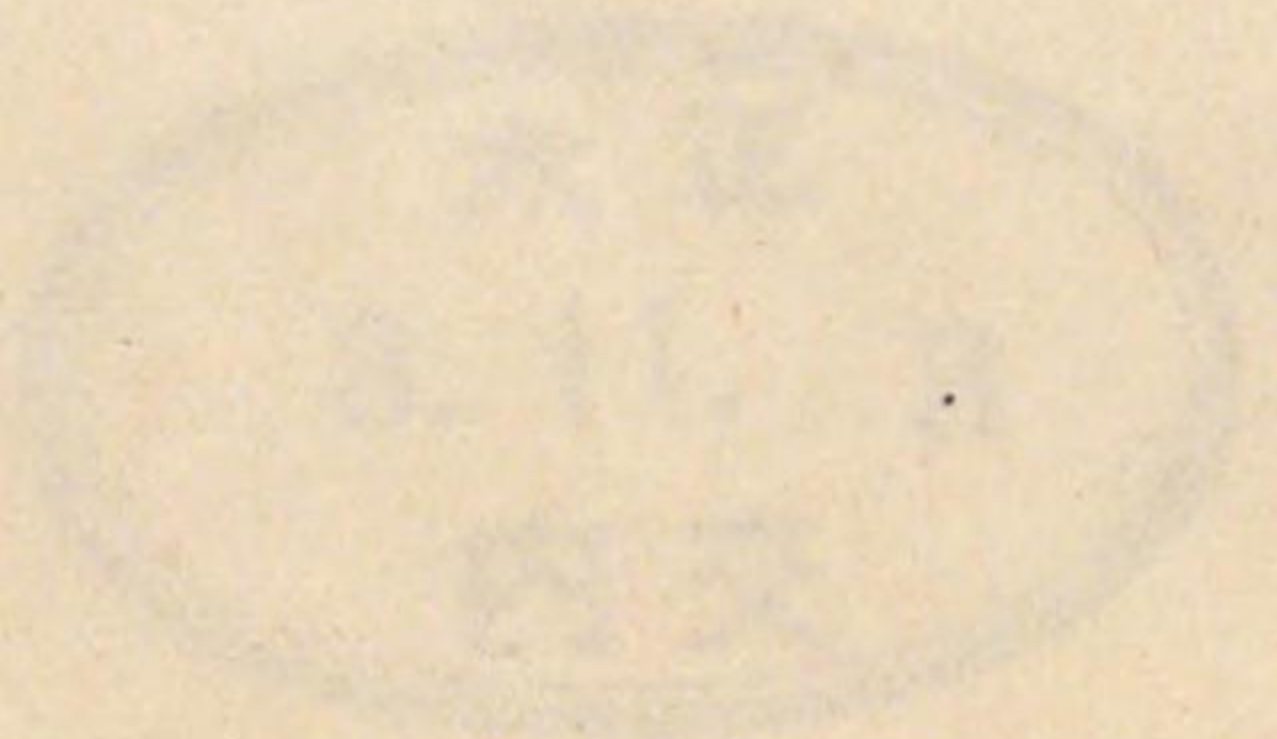
衆議院記事摘要





東京  
高等  
師範  
学校  
附属  
女子  
高等  
学校

摘要





第三十三回(臨時)帝國議會

衆議院記事摘要



衆議院事務局

大正  
3. 11. 8  
内交



第三十三回(臨時)  
帝國議會 衆議院記事摘要

目次

第一章	召集、成立、開會及閉會	一頁
第二章	議長席	三
第三章	議員	三
第四章	全院委員長、常任委員及特別委員	一八
第五章	內閣	一九
第六章	議事	二一
第一節	議案及請願	二一
第二節	議案ノ討議及表決	二一

目次

一



第一款 豫算追加案

大正三年度歳入歳出總豫算追加案

第二款 本院提出法律案

輕便鐵道補助法中改正法律案

第三款 上奏案

開院式・勅語奉答文案

第四款 請願

(議院法第六十四條第  
二項ニ依レルモノ)

軍人恩給法中改正ノ請願外八件(特一乃至九)

第七章 質問及答辯

一 輕便鐵道實測中止ニ關スル件

二 租稅輕減ニ關スル件

三 滿洲ニ於ケル鐵道運賃政策ニ關スル件

四 家祿賞典錄處分事件ニ關スル件

五 北海道小樽區内公有水面埋立工事等ニ關スル件



第三十三回(臨時)  
帝國議會 衆議院記事摘要

第一章 召集、成立、開會及閉會

大正三年五月九日臨時帝國議會召集ノ 詔書ヲ發セラル即チ左ノ如シ

朕帝國憲法第七條及第四十三條ニ依リ本年六月二十日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集シ七日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

六月二十日召集ニ應シタル議員二百二十三名ニシテ補闕選舉ニ當選シタル議員ハ當選證書ノ對照ヲ經テ午前十時各議員議場ニ集會ス議長奧繁三郎君ハ本回モ衆議院規則第十八條ニ依リ議席及部屬ハ必要ニ依リ或部分ノ議席ノ變更ヲ爲シタルノ外第三十二回(臨時)議會ノ通繼續スヘキ旨ヲ宣告シ尙部長、理事モ前議會ノ通選舉セラレタルモノト認ムルコトト爲シ茲ニ本院成立シタルヲ以テ即日其ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報シタリ

議院成立スルヤ同日憲法第七條及議院法第五條ニ依リ六月二十二日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命セラレ當日兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ 車駕親臨シテ開院ノ式ヲ行ハセラレ左ノ 勅語ヲ賜ハリタリ

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク



二  
朕ハ國務大臣ニ命シ海軍軍備補充ニ必要ナル大正三年度追加豫算案ヲ提出セシム卿等慎重審議  
以テ協賛ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

本院ハ式後直ニ開院式 勅語ニ對スル奉答文ヲ議決シ翌二十三日午前十一時議長參内鳳凰ノ間ニ  
於テ拜謁ヲ賜ハリ左ノ奉答書ヲ捧呈セリ

恭ク惟ニ

車馬親臨シテ茲ニ臨時帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激ノ至ニ堪ヘス

臣等 慎重審議協賛ノ任ヲ竭シ上

陛下ノ聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長 臣奧繁三郎誠恐誠惶謹テ奏ス

右ノ奉答ニ對シ更ニ左ノ 勅語ヲ賜ハリタリ

朕衆議院ノ深厚ナル敬禮ヲ嘉ス

二十八日大隈内閣總理大臣ヨリ本月二十九日ヲ以テ閉會式執行ノ旨仰出サレタル通牒アリ當日議  
院法第三十六條ニ依リ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ閉會ノ式ヲ行ハセラル大隈内閣總理大臣  
勅旨ヲ奉シ左ノ 勅語ヲ捧讀シタリ

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕本日ヲ以テ帝國議會ノ閉會ヲ命シ併セテ卿等勵精克ク協賛ノ任ヲ竭セルノ勞ヲ嘉獎ス

本會期ニ於テ會議ヲ開キタルハ開院式當日及二十三、二十六ノ三日、委員會ヲ開キタルハ開院式  
當日及二十三、二十四、二十五、二十六ノ五日ニシテ二十七日ノ一日ハ之ヲ休會トシ議案全部ヲ  
議了セリ(但シ開院式前ノ集會一回ハ之ヲ除ク)

## 第二章 議長席

本會期ニ於テハ前會期ヨリ引續キ議長奧繁三郎君、副議長關直彦君在任シ奧議長ハ常ニ議長席ニ  
著キ議事ヲ整理セリ但シ關副議長一時代リテ著席シタルコト一回アリ

## 第三章 議員

本會期ニ於ケル議員ノ氏名ハ左表ノ如シ(便宜ノ爲府縣順「いろは」別トシ氏名ノ上ニ議席、部屬、  
選舉區及黨派別ヲ掲ク、黨派欄内政ハ立憲政友會、國ハ立憲國民黨、同ハ立憲同志會、中ハ中正



議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一〇二	八	東京市	政	稻茂登三郎君
六二	八	大阪市	中	岩下清周君
一一	三	大阪市	中	石橋爲之助君
二六三	一	大阪	同	岩崎安次郎君
三三〇	二	大阪	政	井坂光暉君
一一一	五	神奈川	政	井上篤太郎君
三	一	兵庫	國	伊藤英一君
一二七	八	千葉	政	板倉中君
六九	六	茨城	政	飯田新右衛門君
三七	四	宇都宮市	國	石田仁太郎君
八六	二	栃木	政	石川甚作君
六八	一	奈良	政	岩本平藏君
二〇六	四	四日市市	政	井上敏夫君
七四	九	名古屋市	政	石黒磐君
三三七	五	靜岡	政	伊東要藏君
一八七	理五	靜岡	政	岩崎勳君
三三四	三	山梨	無	市川文藏君
一七五	一	長野	政	伊藤大八君
二〇三	七	長野	政	岩岡伊代治君
一七二	八	仙臺市	政	岩崎總十郎君
二一九	三	福島	政	井深彦三郎君
二〇九	三	青森	政	伊藤祐一君
四〇	六	山形	國	伊東知也君
三四四	五	秋田市	同	井上廣居君
二五一	四	富山市	政	岩田大中君
三七六	九	島根	同	石田孝吉君
三八	八	岡山	國	犬養毅君

(いゝ)

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二一三	一	廣島	政	井上角五郎君
一一〇	四	徳島市	政	一坂俊太郎君
二六五	九	熊本	同	井手三郎君
三二八	六	京都市	無	濱岡光哲君
三七七	一	對馬	同	早川鐵治君
二〇〇	五	群馬	政	葉住利藏君
二六六	九	茨城	同	原脩次郎君
一一〇	四	茨城	政	濱名信平君
三一	二	三重	國	濱田國松君
一八〇	三	愛知	政	春田祐清君
三六二	九	愛知	同	早川龍介君
一九五	四	岐阜市	政	原眞澄君
一一一	二	岐阜	政	早川六三郎君
二九一	九	福島	同	半谷清壽君
二八	二	盛岡市	政	原敬君
九〇	四	福井市	中	八田裕二郎君
一六五	五	盛岡市	政	原敬君
九三	四	鳥取市	政	濱本義顯君
二八一	五	隱岐	同	原田赴城君
七〇	二	尾道市	中	橋本太吉君
九九	三	廣島	中	花井卓藏君
一〇〇	四	廣島	中	早速整爾君
八五	四	山口	政	林永太君
三三八	五	山口	政	坂東勘五郎君
七九	七	香川	中	林毅陸君
四八	四	佐賀	政	長谷川敬一郎君
一九二	六	宮崎	政	濱田政壯君
一六六	九	熊本	政	原田十衛君
一〇九	二	鳥取	政	西谷金藏君

(い)



一〇七	一五六	一四八	一一九	一六	九八	一八	六五	三六九	四五	二一五	一〇六	二七〇	一三一	二二九	三六七
九	八	六	三	九	三	五	一	九	四	六	二	七	一	八	五
新潟	埼玉	水戸市	茨城	奈良	三重	愛知	静岡市	岐阜	長野	長野	福井	鳥取	島根	山口	山口
中	政	政	政	國	中	國	中	中	中	政	政	同	政	政	同
大竹貫一君	大島寛爾君	小山田信藏君	太田直次君	奥山寛平君	尾崎行雄君	大口喜六君	尾崎元次郎君	岡崎久次郎君	岡部次郎君	小川平吉君	大橋松二郎君	奥田柳藏君	小川藏次郎君	大岡育造君	小河源一君
二三八	一九三	二	三〇五	二二二	二二二	三六	三一七	一五三	八三	一一二	三二一	一四七	三四七	三五九	三六九
六	七	五	八	四	九	六	五	六	一	五	三	八	七	七	七
和歌山	徳島	高松市	高知	高知	福岡	福岡	福岡	鹿兒島	横濱市	新潟市	山口	愛媛	熊本	熊本	熊本
政	政	中	同	政	國	同	同	政	政	政	政	政	同	同	同
岡崎邦輔君	大久保弁太郎君	小田知周君	大石正己君	岡田榮君	大内暢三君	大原義剛君	奥田榮之進君	若尾幾造君	若尾幾造君	若杉喜三郎君	渡邊祐策君	渡邊修君	渡邊國重君	渡邊國重君	渡邊國重君

一五九	一一三	二七	二八〇	二六一	一五二	三二二	一一二	二八〇	五五	三四〇	三二七	一七	一二六	三七二
七	七	六	二	二	七	六	八	二	二	六	七	二	六	六
東京市	大阪	長崎	長崎	山梨	福島	山形	鳥取	鳥取	鳥取	鳥取	鳥取	岡山	和歌山	佐賀
無	政	政	同	政	政	政	政	政	政	政	政	國	政	同
星野錫君	本出保太郎君	帆足隼太郎君	本田恆之君	堀内啓治君	堀切善兵衛君	細梅三郎君	法橋善作君	友常穀三郎君	友常穀三郎君	友常穀三郎君	友常穀三郎君	西村丹治郎君	西風重遠君	西英太郎君
二二二	二二二	四	九	二八八	一九四	一一六	二三五	一六三	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八
三	八	八	八	三	四	一	七	二	二	二	二	二	二	二
金澤市	岡山	下關市	高知	小倉市	福岡	鹿兒島市	鹿兒島	京都市	京都市	京都市	京都市	山形	山形	山形
政	國	政	同	政	政	政	政	政	政	政	政	政	政	政
戸水寛人君	豊福泰造君	土井重吉君	富田幸次郎君	友枝梅次郎君	富安保太郎君	飛岡卯一郎君	床次竹二郎君	奥繁三郎君	岡田泰藏君	大西五郎君	大森與三次君	長晴登君	長晴登君	長晴登君



一 二 九	二 四 三	二 五	三 二 三	一 八 五	六 四	二 六 〇	五 二	三 一 四	三 二	七 六	一 二	三 二 九	一 二 五
九	四	二	二	八	一	六	長 九	四	一	八	六	一	理 九
群 馬	前 橋 市	埼 玉	新 潟	新 潟	長 崎	兵 庫	京 都	東 京	東 京 市	福 島	福 井	石 川	福 岡
政	政	國	政	政	中	政	政	無	國	政	國	政	政
高 津 仲 次 郎 君	竹 越 與 三 郎 君	田 中 左 司 馬 君	田 邊 熊 一 君	高 橋 光 威 君	田 川 大 吉 郎 君	高 鍋 篤 郎 君	田 中 數 之 助 君	高 木 正 年 君	高 木 益 太 郎 君	吉 田 定 之 助 君	吉 田 圓 助 君	米 田 穰 君	吉 原 正 隆 君
一 五 七	三 〇 四	二 四 二	二 七 二	九 二	二 七 一	九 一	二 一 〇	二 二 七	一 五 一	三 六 五	六 七	五 六	八 二
一	九	八	一	八	四	二	八	一	二	九	長 一	一	五
熊 本	佐 賀	愛 媛	愛 媛	松 山 市	島 根	富 山	富 山	福 井	秋 田	山 形	宮 城	岐 阜	靜 岡
政	同	政	同	中	同	中	政	政	政	同	政	中	國
高 田 露 君	武 富 時 敏 君	武 市 庫 太 君	武 內 作 平 君	高 野 金 重 君	高 橋 久 次 郎 君	田 中 清 文 君	武 部 其 文 君	高 島 茂 平 君	田 中 隆 三 君	竹 村 欽 次 郎 君	田 代 進 四 郎 君	高 橋 義 信 君	高 柳 覺 太 郎 君

三 〇 六	八 〇	二 三 六	三 五 一	二 三 七	四 六	二 四	三 五 四	一 四 六	三 三 一	三 七 九	二 七 七	二 四 〇	六	議 席
長 二	六	理 三	三	七	九	七	七	七	八	九	八	二	三	部 屬
福 島	長 野 市	長 野 市	三 重	三 重	千 葉	千 葉	埼 玉	埼 玉	新 潟	新 潟	新 潟	兵 庫	東 京	選 舉 區
同	中	政	同	政	中	國	同	政	政	同	同	政	中	黨 派
河 野 廣 中 君	風 間 禮 助 君	笠 原 忠 造 君	加 賀 卯 之 吉 君	川 村 暉 君	加 瀬 禧 逸 君	柏 原 文 太 郎 君	加 藤 政 之 助 君	粕 谷 義 三 君	加 藤 勝 彌 君	川 上 淳 一 郎 君	川 合 直 次 君	改 野 耕 三 君	片 桐 酉 次 郎 君	氏 名
一 八 九	二 五 〇	三 七 五	一 六 八	一 一 四	三 三 二	二 八 四	二 九 〇	二 五 二	四 九	三 〇 八	一 六 九	五 三	三 一 三	議 席
三	九	四	五	七	六	五	八	二	六	五	八	六	四	部 屬
滋 賀	愛 知	枋 木	枋 木	千 葉	長 崎	兵 庫	佐 賀	佐 賀	福 岡	高 知	德 島	山 口	廣 島	選 舉 區
政	政	同	政	政	政	同	同	政	政	同	政	政	無	黨 派
吉 田 虎 之 助 君	吉 原 祐 太 郎 君	橫 尾 輝 吉 君	橫 田 千 之 助 君	吉 植 庄 一 郎 君	橫 山 寅 一 郎 君	橫 田 孝 史 君	狩 野 雄 一 君	川 原 茂 輔 君	加 藤 新 次 郎 君	片 岡 直 溫 君	川 真 田 德 三 郎 君	金 子 圭 介 君	金 尾 稜 嚴 君	氏 名



三五	(の)					(う)					
八	一四四	二八六	一七〇	一五五	二五八	三〇	三〇一	五一	二五九	二二一	三二五
神戸市	八	五	四	五	八	六	七	一	五	五	三
國	富	千	千	大	東	愛	宮	大	奈	群	大
	山	葉	葉	阪	京	媛	城	津	良	馬	阪
	政	同	政	政	政	國	同	中	政	政	無
野添宗三君	上埜安太郎君	鶴澤宇八君	鶴澤總明君	植場平君	漆昌巖君	村松恆一郎君	村松龜一郎君	村田虎次郎君	村井善四郎君	武藤金吉君	紫安新九郎君
三三三	三四八	二五五	一三四	二五七	六六	三三九	一三九	三四七	三五八	一四一	一七四
五	理二	七	四	四	九	四	三	二	七	一	九
山口	山口	廣島市	福井	山形	青森	巖手	若松市	東京市	東京市	長崎	長崎
無	同	政	政	政	政	政	同	同	同	政	政
久保通猷君	國光五郎君	串本康三君	熊谷五右衛門君	熊谷直太君	工藤善太郎君	工藤吉次君	日下義雄君	黑須龍太郎君	藏原惟郭君	則元由庸君	野村嘉六君

二三四	二〇七	(ぬ)					(づ)					(せ)		議席	
四	七	二九八	一六四	一三三	九四	三六〇	四四	三一九	一六七	一六七	一六七	一六七	一六七	一六七	部屬
茨城	群馬	大分	福岡市	島根	青森	三重	北海道	秋田	沖繩	小樽	鹿兒島	選舉區	選舉區	選舉區	選舉區
政	政	同	政	政	政	同	政	同	政	政	政	黨派	黨派	黨派	黨派
根本正君	根岸曙太郎君	津末良介君	鶴原定吉君	恆松隆慶君	津島源右衛門君	辻寛君	園田實徳君	添田飛雄太郎君	高嶺朝教君	高橋直治君	武満義雄君	氏名	氏名	氏名	氏名
二二九	二二〇	四一	二一六	二九	七	二二四	一四三	一〇四	二六八	三六一	議席	議席	議席	議席	議席
六	一	六	八	七	九	三	三	二	八	七	部屬	部屬	部屬	部屬	部屬
東京	福岡	徳島	和歌山	滋賀	奈良	千葉	新潟	長崎	大阪	山梨	山梨	選舉區	選舉區	選舉區	選舉區
政	政	中	政	國	國	政	同	政	無	同	同	黨派	黨派	黨派	黨派
村野常右衛門君	永江純一君	中川虎之助君	中村啓次郎君	中小路與平治君	中山梅治郎君	長島鷲太郎君	中野貫一君	中倉万次郎君	永見寛二君	中辰之助君	中安信三郎君	根津嘉一郎君	氏名	氏名	氏名



二〇八	二九五	三三六	一一五	三六六	二七五	五四	二二三	四二
九	七	五	一	四	五	長七	六	七
神奈川	埼玉	千葉	愛知	宮城	巖手	松江市	岡山市	大島
政	同	無	政	同	同	政	政	政
福井準造君	福田又一君	福澤桃介君	福岡精一君	藤澤幾之輔君	福田善三郎君	福岡世徳君	福井三郎君	麓純義君
三一	二二五	一六一	七	二四五	一〇	三一	二六	
二	三	五	三	六	四	六	三	六
東京市	神奈川	兵庫	兵庫	千葉	茨城	静岡	長野	香川
同	同	同	同	同	政	政	政	國
古島一雄君	小泉又次郎君	肥塚龍君	小寺謙吉君	小林勝民君	小久保喜七君	小泉策太郎君	小山完吾君	小林源藏君

一八八	長四	福岡	政	藏内治郎作君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二八五	九	神奈川	同	山宮藤吉君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一一七	一	神奈川	政	安村竹松君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
九七	五	佐渡	政	山本悌二郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三四二	長六	高崎市	同	矢島八郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二四一	六	奈良市	政	八木逸郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
五〇	一	岐阜	中	安田伊左衛門君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三七四	二	長野	同	矢島浦太郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一九〇	一	石川	政	山本七朗君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
八	三	岡山	國	山谷虎三君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二七九	理六	廣島	同	山道襄一君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四三	八	愛媛	政	矢野莊三郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二七八	二	熊本市	同	山田珠一君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一八八	長四	福岡	政	藏内治郎作君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三六八	七	東京市	同	松下軍治君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
五七	七	神戶市	中	松方幸次郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一八四	一	兵庫	政	丸尾光春君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二七	八	新潟	國	增田義一君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二三一	四	新潟	政	丸山豊治郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
六三	七	津市	中	松本恆之助君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一九一	理四	三重	政	松本宗吾君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三一	一	静岡	政	松城兵作君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一〇三	八	静岡	政	松浦五兵衛君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
七三	六	岐阜	中	牧野彦太郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一〇五	五	福島	政	松本孫右衛門君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三八〇	五	秋田	同	町田忠治君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一三二	八	石川	政	松田吉三郎君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三四五	七	石川	同	眞館貞造君	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名



三六三		一〇八	三七八	一九七	三一八	二四九	一二三	二七四	二〇五	三一六	一五四	一七三	一八一	一四九	二二三
七	(き)	五	四	一	八	一	九	七	四	七	八	長五	二	四	七
京都		愛媛	和歌山市	廣島	秋田	秋田	山形	巖手	宮城	岐阜	岐阜	甲府市	埼玉	埼玉	埼玉
同		中	同	政	同	政	政	同	政	同	政	政	政	政	政
木村		才賀	阪本彌一郎君	佐々木仙一君	齋藤宇一郎君	榊田清兵衛君	佐藤信古君	柵瀬軍之佐君	澤來太郎君	坂口拙三君	佐々木文一君	佐竹作太郎君	齋藤珪次君	齋藤安雄君	指田義雄君
良君		藤吉君													
一五〇		二九	二一七	七一		二九四		二二四		一九六	二〇四	三〇二	二一八	七八	八九
七		九	九	七	(み)	二	(め)	二	(ゆ)	二	五	四	一	三	三
茨城		兵庫	大阪市	東京市		新潟		鹿兒島		沖繩	北海道	大分	高岡市	弘前市	大阪市
政		同	政	中		同		政		政	政	同	政	中	中
宮古啓三郎君		水野正己君	三谷軌秀君	三輪信次郎君		目黒孝平君		柚木慶二君		岸本賀昌君	木下成太郎君	木下謙次郎君	木津太郎平君	菊池武徳君	菊池侃二君

三五七	五	三四	二九六	二五三	三一〇		一五八		一八二	三一五	二二六				
三三	二	二	五	八	三	六	(あ)	九	(て)	二	五	九			
静岡		名古屋市	栃木	茨城	埼玉	兵庫		山梨		熊本	佐賀市	宮城			
岡		同	中	國	同	政		政		政	無	政			
青地雄太郎君		安東敏之君	阿由葉鎗三郎君	相島勘次郎君	綾部惣兵衛君	安藤新太郎君		手塚正次君		江藤哲藏君	江副靖臣君	遠藤良吉君			
一七八	二八九	三七〇		一四〇	三五二	三〇三		三八一	五八	三五六	一三	八四	一二八		
一新潟		兵庫	(さ)	北海道	札幌區	熊本		久留米市	德島	廣島	廣島	岡山市	石川	巖手	
政	同	同		政	同	同		政	同	中	同	國	政	政	
佐野喜平太郎君		坂口仁一郎君	齋藤隆夫君	東武君	淺羽靖君	安達謙藏君		有馬秀雄君	秋田清君	有田溫三君	荒川五郎君	有森新吉君	相川久太郎君	阿部徳三郎君	







議席部屬	選舉區	黨派	氏名	議席部屬	選舉區	黨派	氏名
二七六	九福島	同	鈴木萬次郎君	一三五	一巖手	政	鈴木巖君
二七三	三福島	同	鈴木寅彦君				

召集前及開會中辭職シタル者各一名アリ即チ熊本縣郡部選出守山又三君ハ大正三年五月三十日、岡山縣郡部選出坂本金彌君ハ同年六月二十六日ヲ以テ孰レモ辭職シタリ

右ニ對シ議長ハ議院法第八十四條ニ依リ補闕選舉ヲ請求シ平山岩彦君(熊本縣郡部)ハ六月十六日、犬飼源太郎君(岡山縣郡部)ハ七月二十三日又片桐西次郎君(東京府郡部)ハ第三十二回(臨時)議會召集前ニ死去シタル中島行孝君ノ補闕トシテ五月二十一日孰レモ衆議院議員選舉法第七十八條第二項ニ依リ當選シタリ

#### 第四章 全院委員長、常任委員及特別委員

全院委員長ノ選舉ハ大正三年六月二十三日ヲ以テ之ヲ行ヒ川原茂輔君過半數(百九拾四點)ノ投票ヲ得テ當選セリ

次テ同日各部ニ於テ常任委員即チ豫算、決算、懲罰及請願委員ノ選舉ヲ行フ  
又本會期ニ於テ特別委員ノ選舉ヲ行ヒタルハ開院式 勅語ニ對スル奉答文起草ノ件一アルノミニシテ其ノ選舉方法ハ議長指名ニ係リ開會數ハ一回ナリ  
本會期中全院委員會ハ之ヲ開カス、常任委員會ノ開會數ハ豫算委員會四回、決算委員會二回、懲罰委員會一回(委員長、理事互選會)、請願委員會一回ナリ  
委員ノ氏名並付託件名ハ附録ニ掲載セリ

#### 第五章 內閣

本會期ハ前會期ト同シク大隈內閣ニシテ其ノ閣員ハ左ノ如シ

- 內閣總理大臣兼 伯爵 大隈重信君
- 內務大臣 子爵 大浦兼武君
- 農商務大臣 子爵 大浦兼武君
- 外務大臣 男爵 加藤高明君



三年六月二十日（召集當日）本會期中ニ於ケル政府委員トシテ左ノ如ク任命セラレタリ

陸軍大臣	岡市之助君
海軍大臣	八代六郎君
大藏大臣	若槻禮次郎君
文部大臣	一木喜徳郎君
司法大臣	尾崎行雄君
逓信大臣	武富時敏君

政府委員

法制局長官 法學博士 高橋作衛君

大藏省所管事務政府委員

大藏次官 濱口雄幸君

海軍省所管事務政府委員

海軍次官 鈴木貫太郎君

海軍少將 秋山眞之君

海軍主計總監 志佐勝君

同月二十六日更ニ左ノ如ク政府委員トシテ任命セラレタリ

政府委員

鐵道院總裁 工學博士 仙石貢君

鐵道院副總裁	古川阪次郎君
鐵道院理事	中西清一君

第六章 議事

第一節 議案及請願

本會期中本院ニ提出セラレタル議案ハ總テ四件ニシテ内豫算案一件ハ兩院ヲ通過シ上奏案一件ハ可決、議員提出法律案二件内一件ハ兩院ヲ通過シ一件ハ之ヲ撤回セリ  
又議院法第六十二條ニ依リ本院ノ受領シタル請願書ハ二十一通ニシテ内議院法第六十五條ニ依ル特別報告ノ請願十一通ハ本院ノ採擇スル所ト爲リ其ノ他九通ハ政府ニ參考トシテ送付スヘキモノト議決シ審査未了ノモノ一通トス（議案及請願特別報告ヲ討議及表決ハ第二節參看）

第二節 議案ノ討議及表決

第一款 豫算追加案



大正三年度歳入歳出總豫算追加案

歳入臨時部

第十款 前年度 繰入金 金六百五拾貳萬六千圓

第一項 前年度 繰入金 金六百五拾貳萬六千圓

歳出臨時部

海軍省所管

第六款 軍備補充費 金六百五拾貳萬六千圓

第一項 軍艦製造費 金六百五拾貳萬六千圓

三年六月二十二日提出、翌二十三日大隈内閣總理大臣及若槻大藏大臣ハ左ノ演說ヲ爲セリ

大隈内閣總理大臣ノ演說

諸君、政府ハ海軍軍備補充ノ緊急ナルコトヲ認メマシテ、臨時議會召集ノコトヲ奏上致シマシタトコロ、御裁可アラセラレ、茲ニ此臨時議會ヲ以テ再ビ諸君ト相見ユルニ至リマシタノハ本大臣ノ光榮ト致ス所デゴザイマス、本大臣ハ此議會ニ於キマシテ、政府所見ノ概要ヲ敍說致シマシテ、諸君ノ御參考ニ供セント存ジマス、諸君、帝國ト列國トノ交際ハ益々親密デゴザイマス、日英同盟、日佛、日露ノ兩協商ハ其基礎愈々鞏固デゴザイマス、最近列強ノ注意ハ著シク

極東ニ鍾マリマシテ、之ニ至大ノ關係ヲ有シマスル帝國ノ外交施設ハ、更ニ緊密ナル注意ト適當ナル措置ヲ要スルノハ申スマデモナク、政府ハ同盟協商ノ精神ニ基キマシテ、極東永遠ノ平和、帝國ノ地位及利權ノ擁護ヲ目的ト致シマシテ、諸般ノ問題ニ對シ、最善ナル效果ヲ擧ゲムコトヲ努メテ居リマス、國防ハ國家興廢ノ係ル所、固ヨリ是ガ弛緩ヲ許シマセズ、而シテ其施設ハ外交及財政ト調和ヲ保タネバナリマセズ、政府ハ深ク内外ノ情態形勢ヲ察シマシテ、調査審究ノ途ヲ設クルノ必要ヲ認メ、茲ニ本日ヲ以テ防務會議規則ヲ制定致シマシタ、政府ハ此途ニ依リマシテ、適當ナル解決ノ方法ヲ講ズル積リデゴザイマス、財政ノ現狀ヲ觀マスルニ、戦後民力ノ休養未ダ十分ナラザルニ國運ノ發展ニ應ズル經費ノ調達ヲ要スルモノ亦少クゴザイマセズ、而シテ財政經濟ノ調節未ダ完カラズ、公債ノ政策動モスレバ不確實ナルヲ免レマセズ、此際ニ於キマシテ國民ノ負擔ヲ輕減致シマシテ、民力ノ伸張ヲ圖リ國庫ノ收支ヲ健全ニ致シマシテ、市場ノ壓迫ヲ除キ、公債政策ヲ整理致シマシテ財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ、貿易ノ均衡ヲ制シマシテ徐クニ經濟財政ノ根本ヲ培ヒマスルノハ、寔ニ目下ノ急務ニ屬シマス、此ノ趣意ニ依リマシテ政府ハ更ニ行政及財政ノ整理ヲ爲シ、國民負擔ノ輕減ヲ圖リ、且公債政策ノ整理ヲ爲スノ計畫ヲ立テマシテ、大正四年度以降ノ財政計畫ト相俟ツテ、是ガ實行ヲ期スル考デゴザイマス、今ヤ民間事業經營ノ能力ハ大ニ發達致シマシテ、獨立自營ノ氣象甚ダ鞏固デゴザイマス、政府ハ此氣運ニ看マシテ、官營事業ニシテ民營ト爲スニ適スルモノハ、成ルベク之ヲ民業ニ移ス積リデゴザイマス、以上諸般ノ事項ニ關シマシテハ、次ノ通常議會ニ於テ更ニ案ヲ提シ、諸君ノ協賛ヲ乞フ積リデゴザイマス、今期議會ニ於キマシテハ政府ハ第三十議會ノ決定ニ基キマシタ海軍軍備補充ノ緊急ナルコトヲ認メマシテ、單ニ此案ニ限リ提出スルコト、致シマシタ、戰艦三隻建造ノ計畫ハ、大正二年度豫算ニ其一部ヲ現ハシマシテ、既ニ其事業ニ著手致シマシタ、然ルニ大正三年度ニ於キマシテハ、豫算不成立トナリマシタタメニ、事業ヲ一時中止スルノ止ムヲ得ザルニ至リマシタ、政府ハ此事業ヲ繼續實行致シマスノハ、國務進行上緊急ナリト認メマシテ、必要ナル追加豫算ヲ要求スルコト、ナリマシタ、諸君ノ審議ヲ煩ハシ協賛ヲ



願ヒマス、尙提案ノ説明ハ主務大臣ヨリ陳述セラル、コト、存ジマス  
若槻大藏大臣ノ演説

諸君、茲ニ海軍軍備補充費追加ニ關スル大正三年度歳入歳出總豫算追加案ヲ諸君ニ御紹介申上  
ゲマスコトハ、私ノ最モ光榮ト致ス所デアリマス、本豫算案ニ計上シテアリマスルコロノ歳  
出ハ、總額ガ六百五十二萬六千圓デアリマシテ、臨時部海軍省所管軍備補充費中、軍艦製造費  
ニ屬スル本年度既定年割額三千八百七十七萬三千四百四十三圓ニ對シマシテ、追加ヲ要スル  
コロノ金額ニナルデアリマス、而シテ是ガ財源ニ關シマシテハ、前年度剩餘金ヲ以テ支辨ス  
ルノ計畫デアリマス、抑々帝國海軍々備ノ充實ニ關シマシテハ、最近列國海軍ノ趨勢ニ應ジテ、  
我製艦及造兵ノ方針ニ適當ナル變更ヲ加フルノ必要ナルコトヲ認メマシテ、曩ニ明治四十四年  
度豫算計畫ニ於テ八千二百餘萬圓ヲ既定費額ニ追加致シテ、大正五年度マデニ竣成スベキ艦艇  
建造ノ計畫ヲ定メテ、今ヤ其實施ノ中央ニアルデアリマス、ケレドモ逐年減退スベキ我海軍威  
力ノ補充ニ關シマシテハ、自カラ別種ノ計畫ヲ必要ト致シテ、政府ハ前年度ニ於テ先ヅ其最モ  
急ヲ要スル戰艦三隻ヲ建造スルノ計畫ヲ定メテ、之ニ要スル總費額九千萬圓中、初年度ニ於テ  
要スル金額六百萬圓ヲ同年度豫算ニ計上致シテ、帝國議會ノ協賛ヲ經、今正ニ是ガ建造ニ著手  
ヲシテ居ルノデゴザイマス、而シテ是ガ完成ヲ要スル本年度以降ノ費額ハ、本年度總豫算案ニ  
計上致シテ、第三十一議會ニ提出セラレタノデアリマス、ケレドモ總豫算ガ不成立ニナリマシ  
タ爲ニ、遂ニ其成立ヲ見ルコトニナラナカツタノデアリマス、而モ帝國國防ノ現狀ニ於テ是ガ  
完成ヲナスコトハ、一日モ之ヲ緩ウスルコトノ出來ナイ事情ガアリマスニ依テ、是ガ工事ノ續行ニ要ス  
ル豫算ノ成立ハ、到底次期ノ通常ノ議會ヲ待ツコトガ出來ヌノデアリマス、是ガ今度召集ニナ  
リマシタ臨時議會ニ向テ本豫算ヲ提出スルコトノ已ヲ得ナイ次第デアリマス、右三艦建造費ノ  
本年度豫定所要額ハ九百五十萬圓デアリマシタケレドモ、豫算ノ不成立ニナリマシタ結果、本  
年度ノ工程ニハ多少ノ遅延ヲ來シタルノミナラズ、政府ハ臨時議會デアルト云フコトノ性質ニ

鑑ミマシテ、本年度ノ追加要求額ハ出來得ル限り之ヲ減少スルノガ相當デアルト認メマシタニ  
依ツテ、年度内緊急已ヲ得ナイ目前ノ需要ニ應ズルノ程度ニ於テ、本費ヲ計上スルコト、シテ、  
前ニ述ベマシタヤウナ金額ニ止メタ次第デアリマス、其餘ノ金額ニ關シマシテハ、更ニ次期ノ  
議會ヲ待ツテ是ガ協賛ヲ仰ガントスル次第デアリマス、若シ夫レ一般ノ財政計畫ニ至リマシテ  
ハ、唯今ノ所デハ未ダ具體的ニ其内容ヲ説明スルノ時期ニ達シテ居リマセヌケレドモ、現内閣  
ハ其成立ト共ニ大體次ニ申上ゲルヤウナ方針ヲ定メタノデアリマス、第一ハ政費ヲ節約シ國民  
負擔ノ輕減ヲ圖ルコト、第二ハ公債償還ノ實行ヲ確實ニスルト共ニ、市場ニ向テハ公債ノ募集  
ヲ爲サナイト云フコト、第三ニハ國庫收支ノ状態ヲ改善シ、兼ネテ納稅者ノ便宜及金融ノ疏通  
ヲ圖ルコト、大體此三箇條ノ方針ヲ定メタノデアリマス、大正四年度豫算ハ右ノ方針ニ依テ是  
ガ編製ヲ爲ス考デアリマシテ、目下其調査中ニ屬シテ居リマスカラ、他日編製ヲ了シマシテ、  
次期ノ議會ニ於テ諸君ノ協賛ヲ仰グコトニナラウト存ジマス、諸君、私ハ諸君ガ慎重審議本追  
加豫算案ニ協賛ヲ御與ヘニナラムコトヲ切ニ希望致シマス

此ノ日豫算委員ヲ選舉シ委員ハ同日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末同月二十六日本案ヲ可決  
シ報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ本案ヲ院議ニ付シ委員長井上角五郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報  
告ヲ爲ス

大正三年度歳入歳出總豫算追加ノ件ニ付キマシテ調査ノ經過竝ニ結果ニ報告致シマス、本月二  
十三日ニ豫算委員會ハ成立致シマシテ、二十四日、二十五日ノ兩日、質問ヲ繼續致シマシテ、  
二十六日即チ本日午前ニ於キマシテ是ガ討議ノ結果、全部賛成スルコトニ決定致シマシテゴザ  
イマス、此段御報告致シマス



次テ大岡育造君、犬養毅君、島田三郎君ハ執レモ本案ニ賛成ノ演説ヲ爲シタリ

大岡育造君ノ演説

本員ハ唯今豫算委員長ノ報告ノ通り、今度政府ニ於テ追加豫算トシテ提出セラレタル海軍ノ補充費ハ、全部之ヲ賛成致シマス、元來此臨時議會ヲ開カレタル手續キニ付キマシテモ、憲法上疑義ノ存スル問題デアリマス、雷ニ議院内ニ於テ議論ノ岐レテ研究サレツ、アルノミナラズ、院外ニ於キマシテモ未ダ一定致サヌ所ガアルヤウデアリマス、政府ニ於キマシテモ、昨日ノ委員會ニ於テ之ニ答辯スルニハ稍々議ヲ凝サレタ後ニ、始メテ公言セラレタル程ノ問題デアリマス、併ナガラ此憲法ノ疑義ハ疑義トシテ吾々ハ國家必要ノ要求ニ對シテハ其政府ノ誰タルヲ問ハズ、是非利害ヲ判斷シテ賛成スベキモノハ賛成ヲ表スルノ方針ヲ以テ、此案ヲ賛成スルノデアリマス、疑義ガアラバ爭フベシト云フ聲モアリマスガ、私共ハ島メテ紛擾ヲ避ケタイツモリデアリマス、誠ニ畏レ多イ事デアリマスケレドモ、大正ノ天地ハ未ダ明治ノ乾坤ノ天佑ノ多カリシガ如クニ瑞雲靈巖タリトハ申上ゲ兼ネル、政變ニ次グニ政變ヲ以テシ、天災地殃人事ノ不祥モ頻々トシテ起リ不景氣ハ全國ヲ襲フ日一日ヨリモ甚シク、今ヤ或ハ恐慌ノ來ラントスルコトヲ虞ルル有様デアアル、此時ニ方ツテハ宜シク上下相戒メテ、慎重事ニ當ツテ大御代ノ靜謐ヲ期シテ、此間ニ互ニ政策ヲ研究シテ國家ノ急務ヲ進捗スベキデアルト思フデアリマス、然ルニ現内閣ノ諸公竝ニ與黨ノ諸君、吾々ニシテ斯ノ如キ用意ヲ致ス以上ニハ、慎重事ニ當ラルベキ筈ノ所、却テ甚ダ不謹慎デアアル態度ガ多イデアリマス大隈首相、今日ノ大切ナル國家ノ重キニ任ジテ國政ヲ燮理セラレ、定メテ御苦心ノコトデアラウト察シマス、老齡此局ニ立タル、同情ニ堪ヘマセヌ、併ナガラ閣下ガ自ラ所有セラル、所ノ新聞紙ノ言論ハ如何、閣下ガ屢開イテ宴會ヲ催シツ、ナサル所ノ演説ノ不行儀ナルコト如何、是ハ姑ク問ハズニ措キマセウガ、凡ソ立憲政治ヲ穩便ニ進行シヤウト思フナラバ、先以テ言論ノ責任ヲ有ツコトガ大切ナコトデアリマス、言論ノ責任ヲ有タザレバ立憲政治ガ圓滿ニ行ク筈ノモノデハナイデアリマス、大隈伯爵多年政界

ニ立ツテ言論ノ雄ヲ以テ稱セラル、御方デアリマスカラ、長イ間ノコトヲ舉ゲテ其齟齬ヲ言ヘバ數限リモナイコトデアリマスルガ、此問題即チ國防ノ問題、海軍ノ問題ノミニ就キマシテモ稍々言論ノ尊重ニ缺クル所ハナイカト私ハ思フデアリマス、昨日ノ豫算委員會ニ於テ既ニ吉植君ヨリ舉ゲテ問ハレタルガ如クニ、閣下ハ一昨年ニ於テ國防ノ必要ハ國民ノ富裕ナル國ニ於テアルコトデアアル、斯カル貧乏ナル國ニハ泥棒ハ這入ラヌ、表ノ門、裏ノ戸ヲ締メル必要ハナイ、海軍モ要ラナケレバ陸軍モ無用ト言ハレタルコトハ一昨年ノコト、其言責ヲ明カニスル爲メニ著述ヲ公ニセラレタル其御方ガ、此軍艦三隻ヲ目的ニ臨時議會マデ開クト云フコトハ、言責ナキノ甚シキノデアリマスマイカ吾々ハ賛成スル所以ニ於テ頗ル——注意ヲ以テ御聽キナサイ、又同ジ閣員中ニ今日ハ席ヲアノ隅ニ占メラレテ居ルヤウデアリマス尾崎君ガ今ノ此海軍ノ案ノ含マレタル今春ノ議會ニ於ケル豫算ニ對スル言動ハ如何、全ク此三艦ハ無用ナリト言フタルノミナラズ、是レガ國家ノ平和ヲ害スル、國交ヲ妨ゲル、此設備總テガ後レテ居ツテ、此三艦ノ出來ル時ガ即チ無用ニ歸スル時デアツテ、結局博物館ノ參考品ニナルニ過ギストマデ放言シタガ、此内閣ニ居ツテ此案ニ連印ヲシテ居ルトハ何事デゴザイマセウカ、斯ノ如シ更ニ驚クベキハ承ル所ニ依レバ人ト禽獸ト云フ問題ヲ以テ教育界ヲ騒ガセテ居ラル、趣デアアル、其演説ハ私ガ直接ニ聽キマセスカラ、何ヲ言ハレタカ分リマセヌ、併ナガラ尾崎君自身ガ新聞ニ辯明セラレタル所ヲ以テ見レバ、略々推察ガ出來マスル、國政ノ全體ニ於テ注意ヲ與ヘルノデアリマス、ツマリ憲法ノ布カレタル國ニ於テ、初メテノ人ノ人タルコトヲ得ルモノデアツテ、憲法治下ニアラザル者ヲ禽獸ト看做ス論定デアアルデアリマス、即チ尾崎君ノ新聞ニ公ニシタル論說ニ依レバ、豫テヨリ拙著「人ト禽獸」トニ於テ論ジタルガ如ク、憲法ノ治下ニ置クニアラザレバ人民ノ權利自由ハ全ウスルコトガ出來ナイ、全ウスルコトガ出來ナケレバ禽獸ト同ジ、斯ウ云フ意味デアアル吾々ハ明治二十三年以前、即チ憲法發布ノ以前ニ於テハ禽獸視サレテ宜シイノデアリマス、況ヤ今ノ日本ハ本國ニ於テコソ憲法ノ下ニアリマスケレドモ、我が新附ノ民タル朝鮮及臺灣ニ於テハ、未ダ憲法ハ實施サレテ居ラヌデアリマス、同ジ 陛下ノ赤子デ



アルノデアアル、同ジ 陛下ノ赤子ニシテ而モ法律ノ下ニ、裁判所ノ保護ノ下ニ、權利自由ハ立派ニ保護サレテアルモノヲ明法ノ大臣タル尾崎君ガ右ノ如キノ言ヲ爲サル、ト云フコトハ、果シテ國務大臣タルノ位地ニ對シテ當ヲ得タル言動ト云フベキカ、私ハ誠ニ内閣諸公ノ中ニ不謹慎ノ御方ノアルコトヲ擧ゲテ、諸君ヲ戒メタイト思フノデアリマス、現内閣ニ於テハ行政財政ノ整理ヲ爲シテ人民ノ負擔ヲ輕減スルト云フコトヲ、施政方針ニ言ハレテアリマス、誠ニ結構ナコト、思ヒマス、而シテ豫算委員會ニ於ケル質問應答ノ結果ニ依レバ、ドノ邊ニ於テドレダケノ減稅ガアルデアラウカ、整理ガ付クデアラウカト云フコトヲ察スルニ、先ヅ海陸軍ガ恐ラク大ナル點デアラウト思ハレル、然ルニ岡陸軍大臣ハ答ヘテ、既ニ前ノ大臣ガ餘リニ整理ヲ仕過ギテ、今日ハ頗ル困ツテ居ル所モアル位デアラカラ、甚ダ多クハ期セラレヌト云フ意味ヲ答ヘラレタ、一部分ヲ擧ゲテモ其大ナル所ヲ見レバ、斯ノ如キモノデアアルノデアリマスカラ、是亦頗ル容易ナラヌコトデアラウト考ヘマス、併ナガラ容易ナラザルガ故ニ如何様ニ御返答ナサレテモトハ私ハ申サヌノデアリマス、何レ行政ヲ整理シ財政ヲ整理スルト云ヘバ、冗官ヲ淘汰シ冗員ヲ除ク等ノコトガアラチバナラヌト思フノデアリマスガ、却テ此頃樞密院ノ懸案ニナツテ居ル審査中ノモノヲ見レバ、新タニ政務次官ヲ置キ、參與官ヲ置ク等ノコトガアルヤウデアアル、是マデノ現在ノ政治ノ運轉ニ於テハ、今ノ官吏ノ數ニ於テ不足ヲ告ゲルカ、之ニ依テ運轉不能デアアルカ、左様ナコトハナイデハナイカ、現ニ能ク運轉サレテ居ル、唯此中ニ最モ民間等ニ於テ經歷ヲ積マレタル名士ヲ其政務官ニ與カラシムル道サヘアレバソレ足ル、今ノ役人ガ足ラヌノデハナイ、今ノ役人ノ爲スコトヲ却テ彼ノ文官任用令等ノ如キモノデ、制限ヲシテ妨ゲサヘシナケレバ宜イ、此點ニ付テハ伯爵ガ多年唱ヘルトコロハ大方私ノ言フコトニ先ヅシテ居ルト思フ、ナゼ之ヲ御決行ニナラヌノデアアル、之ヲ決行スルコトナシニ、從來ノ官吏ヲ拾ヒ集メテ次官ニシテ、之ヲ釘付ケニシテ別ニ冗員ヲ置カウト云フコトハ是ガ行政ノ整理デアアルカ、是ハ決シテ行政ノ整理デハナイデアアルマイカト私共ハ疑フ容レルノデアリマス、又伯ハ名ヲ黨弊ノ廓清ニ假リテ、屢々地方官ヲ罷免シ更迭セラル、若シ黨弊アリトスルナラバ、之ヲ廢除

セラル、コト勿論當然ノコトニ屬スル、何等異議ヲ挾ムベキコトデハナイノデアリマス、併ナガラ實際ハ大ニ是ガ趣ヲ異ニ致シテ居ル、勿論吾々ハサウ廣ク多クノ實際ヲ知ラヌ者デアリマスカラ、自ラ直接事ニ當ツテ親シク知ル所ヲ以テ證スルノ外ナイノデアリマスカラ、一例ヲ知ル所ニ從ツテ擧ゲテ見マスレバ、本年ノ春、東北九州ニ大災ガ起リマシタニ付テ、救濟會ヲ設ケタ、此事名ハ松方伯ノ總裁デアリマスケレドモ、實ハ澁澤益田等ノ實業界ノ有力家ガ最モ之ニ努メラレ、本員與カツタト云フハ名ノミデアリマス、而シテ御上ヨリモ御下賜金モアツタコトデアリマスカラ、果シテ各地方官ガドノヤウニ能ク之ヲ分配スルカ、利用スルカヲ視察スルニ努メテ見タモノデアリマス、可ナリ各地方官共兪メマシタケレドモ、其中ニ於テハ青森縣ノ田中某ト云フ知事ガ最モ能ク兪メテ其成績ヲ擧ゲタモノデアアル、是ガ何ゾ圖ラン俄ニ罷免ヲ受ケタタメニ、此事ニ當ツテ居ル人々ハ大ニ驚イタノデアリマス、其意外ナルニ驚イタノデアリマス、是ハ伯爵ノ親シク交ハラル、トコロノ友達ノ關係シテ居ル救濟會ノコトデアリマスカラ、事ノ序デニ御聽取下サレバ、我言ノ決シテ誤ラザルコトヲ御了解ニナルダラウト思ヒマス、尙黨弊ガアル——黨弊ガアルト言ハレマスガ、黨弊ヲ地方官ノ方デ改正ガ出來ルヤウニ思召ス程ノ大隈伯ハ官僚式ノ人トハ私ハ思ハナカッタノデアアル、伯爵ハ御承知デナイガ、内務大臣デアリ總理大臣デアレバ知ラヌトハ仰セラレ惡カラウガ、私ノ知ツテ居ル所、即チ郷里ノ山口縣ニ新タニ縣知事ノ更迭ヲ行ヒ、警部長ノ入レ替ヲ致シマシタ、赤星ト云フ知事ヲ熊本縣カラ移シ佐藤ト云フ警部長ヲ同時ニ連レテ移シタノデアリマスガ、此警部長ハ山口縣ニ居ルコト四五日ニシテ、東京ノ會議ニ來ツテ直チニ休職ニナツタノデアアル、是ハ山口縣ニ於テ黨弊ガ甚ダ熾ンデアルガタメニ御替ヘニナツタノデアリマスカ或ハ自ラ御選定ニナツタ其役人ガ、甚ダ不都合ナモノヲ其所ニ御薦メニナツタ過チヲ御後悔ニナツタノデアリマスカ、伯爵ノ賢明ト雖モ萬事ニ付テ左様ニ詳シク知ラレル譯ノモノデナイカラ、之ヲ伯爵ニ強テ言フノハ私モ控ヘネバナラヌガ、ソレアルガ爲メニ閣員中ニハ大浦君ノ如キ長ク行政ニ通ジタ人モアレバ、次官モ亦相當經驗ノアル者ガアル、屢々地方官ヲ更迭シテ而モ自ラ選ンダ人ヲ自ラ替ヘル、一月ヲ經タナイ中



ニ斯ノ如クシテ果シテ地方政治ト云フモノガ舉ル御思召アルカ否ヤ（議場騷然）凡ソ現内閣ノ施政ノ實況ヲ見レバ斯ノ如キ有様デアリマス、今之ヲ決シテ閣下ニ就任勿々ノ際ヲ願ミズシテ肉迫スル云々ト云フノデアリマセヌガ、國家行政ノ運ビ方ハ斯ノ如ク相成ツテ居リマスルカラ、少シク謹慎ニ、モウ少シ緩ク事情ヲ御覽ナサツテ、徐ロニ閣下ノ抱負ヲ御實行ニ相成ツテハ如何デアリマセウカ、大正ノ天地ハ未ダ安心ハ出來ナイ程ニ危險ナリトハ私ハ申シマセヌケレドモ、頗ル無事ナリトハ申スコトガ出來ナイ時デアリマスカラ、相誠メテ互ニ餘リニ放言ヲ爲シ、斯ノ如キ單ニ言論ヲ妨ゲル位ノ程度ニ於テ——此今期ノ議會ノ靜肅ヲ保タウト云フ人ノ心ヲモ打破ルヤウナコトデ、如何ニシテ國家ノ憲政ガ立派ニ出來マセウ、吾々ハ決シテ人ヲ濫リニ攻撃スルノデハナイガ以上言フタルコロノ如キ言責ナルモノハ輕ンゼラレテアル、立憲政治ニ於テハ言責ヲ尊重スルニ非ザレバ、健全ナル發達ヲナサズト云フコトニ就テハ、諸君御異論ノナイ筈デアアル、諸君ニ於テモ此言責ヲ完ウセンガ爲ニ、政府ヲシテ營業稅ノ全廢ヲナサシメント欲シ、通行稅ノ全廢ヲナサシメント欲シテ努メテ居ラル、コトハ、畢竟言責ヲ重ゼラル、所以ト解スルガ適當デアラウト思フノデアアル、然ルヲ我ハ議員中ニ言ツタモノデアツテ政府ニ立ツテシタコトデハナイト云フヤウナコトヲ、言拔ケルノヲ許スコトガ出來タルモノデアラウカ否ヤ、斯ノ如キ次第デアリマスカラ吾々ハ此豫算ニ賛成ヲスル、此議場ノ滿場一致ノ多分結果ヲ得ルデアラウト思ヒマスケレドモ、ソレハ今ノ政治ノ運ビガ非常ニ満足デアルト云フ意味デハナクシテ、前途ヲ憂フル、此天地ノ未ダ靜平ナラザル所、斯ク民間ノ不景氣ナ状態ニ顧ミテ、何卒シテ平和ノ中ニ此伯爵閣下ノ抱負ヲ徐ロニ行ハシメテ利害ヲ十分ニ互ニ見テ、然ル後ニ勝負ヲ決スルモ遅カラズトシテ吾々ハ居ルノデアアル、何モ諸君ガザワ〜ト騒グ必要ハナイノデアリマス

犬養毅君ノ演說

本員ハ此案ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス、此賛成致スノハ前議會——前議會ニ吾々ノ主

張シタルトコロノモノガ、今日實現シタモノトシテ喜ンデ之ヲ賛成致スノデアリマス元來吾々ノ主張ハ今日ノ國防問題、即チ海軍ニ於ケル計畫、陸軍ニ於ケル計畫、軍事當局者ニ於テ計畫サレタモノヲ實行スルガ爲ニハ、數年ニ亘ツテ——多年ノ間ムヅカシイ問題ニナツテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ度々議會ノ紛糾ヲ惹起ス、ソレ故ニ吾々ノ主張スルコロハ國防會議ヲ開イテ之ニ軍事ノ計畫ノ全部ヲ議事ニ掛ケテ、而シテ財政ト調節、外交ト調節、總テノ一般ノ國務ト按排調節ヲ取ルト云フコトヲ主張致シタノデアリマス、此主張カラ申スト、臨時費ノ全部ヲ後廻シニシテモ宜イ譯デアアル、所ガ奈何セン此中既ニ三隻ノ戰艦ハ現ニ製造中ニアルモノガアル、此現ニ製造中ニアルモノ、工事ヲ中止スルト云フコトハ甚ダ困難デアアル、ソレ故ニ前ノ議會ニ於テ其臨時費ノ中カラ所謂九千萬圓計畫ナルモノヲ引拔イテ協賛致シタノデアリマス、是ガ不幸ニシテ貴族院ト議論ヲ異ニシタ、吾々ガ貴族院ノ説ニ同意致シ兼ネタト申スノハ、三隻ノ軍艦ノ一時工事ヲ中止スルト云フコトト、我衆議院ノ議權ノ消長ニ關スルト云フ大問題トハ取換ヘガ相成ラヌノデアリマス、ソレ故ニ餘儀ナク之ニ不同意致シタ結果、不成立ヲ告ゲルニ至リマシタガ、併ナガラ此院議尊重ト云フ問題ノ爲ニ、吾々ノ主張ハ少シモ中斷サレテハ居ナイ、消滅シテハ居ナイ、又中斷サレ消滅サルベキ道理ガナイノデアリマス、ソレ故ニ前ノ議會ニ吾々ガ主張シタ一貫ノ方針、一貫シタル主張ガ今日實現シタモノトシテ欣然トシテ之ニ賛成ヲ與ヘマス、而シテ此機會ヲ以テ、當局者ニ向ツテ軍事計畫ニ關スル吾々ノ希望ヲ述ベタイト考ヘマス、多年ノ問題デアリマシタ所謂國防會議ナルモノガ、一種ノ所謂變形ノモノガ今日生ジテ參ツタノデアリマス、所謂防務會議、ソコデ防務會議ト吾々ガ主張致シ、即チ建議案ヲ差出シマシタ國防會議トハ、其實質ニ於テ其根本ニ於テ餘程異ナル所ガアルト云フコトハ私共甚ダ遺憾ニ存ズル、是ガ異ナルコトハ反對ノ諸君ノ言ハル、ガ如ク、速記録ヲ御覽ニナルト直グ分ルノデアリマス、吾々ノ此國防會議ナルモノハ軍事計畫ノ根本ニ持ツテ行ツテ財政ト調節シ、外交ト調節スルト云フコトヲ計ルト云フコトニナル主義デアリマス、ソレガ故ニ是ハ速記録ヲ御覽ニナルバ分ルガ、趣意ハ其通りデアアル、ソコデ根柢ト其實質ニ於テハ吾々ノ主張トハ異ナ



ルガ、既ニ設ケラレタ以上ハ、設ケラレタ以上ハ、其内閣ニ於テ之ヲ利用シ、十分效果ヲ舉ゲラレルト云フコトヲ望ムノデアリマス、不完全ナガラ既ニ防務會議ガ出來テ居レバ此防務會議ナル機關ニハ幾分ノ彈力ハ有テ得ルコトト私ハ承知ヲ致シテ居ル、果シテ此間ニ多少ノ彈力ガアルトスルナラバ、是ニ列セラル、トコロノ議員ノ手腕働キニ於テ、或ハ直接或ハ間接ニ、年來ノ問題タルトコロノ國防問題ノ解決ヲ與フルト云フコトニ、幾ラカノ效力ガアリハセヌカト云フ望ヲ有ツテ居ルノデアリマス、夫故ニ此彈力ヲ推擴メラレルト、及ブダケニ此間ニ權力ヲ有テ效用ヲ舉ゲルト云フコトハ、現總理大臣タル大隈伯爵ガ多年ノ主張多年ノ經驗ヨリ得ラレタルトコロノ大手腕ヲ以テ、之ヲ利用シテ、此多年ノ問題タルトコロノ軍事問題ヲ平和ニ圓滿ニ解決セラル、コトノ希望ヲ述ベテ置キマス、是ダケガ私ノ希望デアリマス

島田三郎君ノ演説

諸君、本員ハ此壇ニ登ツテ政府提出ノ原案ヲ、猶豫ナク、一點ノ疑懼ナク賛成スルノ愉快ニ接シタノデアリマス、之ヲ賛成シタコトニ付テ其理由ハ前ノ政友會ノ代表ノ御話、並ニ國民黨ノ代表ノ御話ト稍々趣ヲ異ニシテ居リマス、併ナガラ其結果ハ同一デアアル、一體三十議會ニ於テ六百萬圓ヲ可決致シマシタ時カラ、既ニ此問題ハ事實ノ上ニ是認セラレテ居ルノデアアル、然ラバ何故ニ爾後幾多ノ變化ヲ現ハシテ居ルカト云フト、是ハ製艦ノコトニ對シテノ反對ニアラズシテ、之ヲ事實ニ行フトコロノ内閣ノ信任問題ニ依ツテ分レタノデアリマス、政友會ノ諸君ハ勿論、我黨内閣ト世ノ中ニ公言セラレタノデアアルカラシテ、其内閣ヲ援ケ、更ニ其信任ノ事實ヲ明カニシテ之ニ賛成セラル、ノハ當然ノ結果デアアル、國民黨ノ御方モ亦反對デアアルカ賛成デアアルカノ中央ニ立タレテ居リマスルガ、事實ニ於テハヤハリ其引續ノ前々ノ議會ニ於テ之ヲ賛成セラレタノデアアル、吾々モ亦其時ニ賛成スベキカ若クハ、反對スベキカト云フ時ニ、吾々ハ反對ヲ致シタニ相違ナイノデアリマスガ、同ジ理由ヲ以テ貴族院モ亦是ニ向ツテハ不同意ヲ表セラレタノデアアル、併ナガラ其議決ノ標準ハ稍々貴族院ト我黨ノ結果ハ違ツテ居リマス、併ナガラ其精神ハ貴

族院ノ不信任ノ意味ト同一デアツタ、今ハ完ク場合ガ異ツテ、元ニ立戻ツテ既ニ海軍ノ廓清ト云フコトハ、昨日一昨日ノ豫算委員會ノ問答ニ於テ反對ノ地位ニ立タレベキモノト豫想シテ居ツタ方々モ、満足セラレタモノト見エテ、豫算委員會ハ全會一致ヲ以テ可決ヲ致シタノデアリマス、更ニ本會ニ於テ大岡君ノ演説ハ、種々ノ論點ニ岐レマシタケレドモ、結果ハ同一デアリマス、吾々ハ海軍廓清ノ事實ニ付テ反對ノ御方サイモ満足セラレ、ナラバ、大ニ吾々ハ愉快ヲ以テ同一ノ投票ヲ致ス機會ニ接シタイノデアリマス、併ナガラ此際ニ於テ種々ノ疑惑ガ吾々ノ胸中ニ生ズルノデアリマス、第一ニ大岡君ニ私ハ問フベキコトガアルノデアリマス、ソレハドウ云フコトデアアルカト云フト、臨時議會ニ關係シテ憲法上ノ疑義ハ尙ホ研究ヲ要スル——併ナガラ研究ヲ要スルコトデアアルナラバ、諸君ノ胸中ニ於テ未ダ未決デナケレバナラヌノデアリマス、未決ノモノヲ此重大ナル問題ニ於テ、未決ノ儘ニ事實ノ適例ヲ議會ニ現ハスト云フコトハ如何ナル御考デアリマスカ、憲法ノ疑義ハ輕クシテ事實ノ上ニ必要デアアルナラバ、憲法ノ疑義ハ之ヲ未決ノ儘ニナシ、事實ノ上ニ之ヲ是認スルト云フ御考デアリマスルカ、此ニ於テ憲法ニ對スル吾々ノ觀念トハ甚ダ相異ツテ居ル、内閣ヲ代表シテ一木文部大臣ハ昨日ノ豫算委員會ニ於テ、内閣ノ議ヲ表明セラレタノデアアル、内閣ハ臨時議會ニ對シテ憲法四十三條ノ見解、並ニ吾々ガ是ニ同意シテ此臨時議會ヲ是認スルニ至ツテ、一點ノ疑ヲ吾々ハ懷カズニ此臨時議會ノ始末ヲ是認スルノデアリマスガ、吾々ガ是認シテ茲ニ事實ノ適例ヲ開イタト云フコトハ、極メテ愉快ニ狐疑ナク茲ニ明言スルノデアリマス、惜ムベシ多數ヲ擁シテ居ラレル政友會ハ、尙ホ此點ニ於テ遲疑徘徊シテ居ラレル、遲疑徘徊シテ居ラレルナラバ何故ニ先ヅ此大問題ヲ決スルダケノ親切心ヲ憲法ニ向ツテ有ツテ居ラレヌト云フコトヲ、吾々ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、第二ニ大岡君ハ種々ノ點ニ於テ現在ノ内閣員ニ向ツテ、全部ニ或ハ個々ニ向ツテ不満足ヲ表セラレマシタガ、其不満足ハ吾々ノ意見ヲ以テ之ヲ見マスルト、頗ル兒戲ニ類似シタト云フ甚ダ御氣ノ毒ナル批評ヲ加ヘザルヲ得ヌ、例ヘバ大正ノ年度ニ入ツテ明治ノ聖代ノ如ク平和デナイ、多事デアアル、憂フベキトコロノ徵候ガアル、其徵候ハ如何ナルコトデアアルカト云ヘバ、



一ハ天變地異一ハ天下不景氣ヲ訴ヘテ居ツテ人心安カラヌト云フコトデアアル、人心安カラヌト云フノハ確カニ政治上ノ範圍ノ問題デアリマスガ、天變地異ニ至ツテハ如何ナルコトデアアルカ、恐クハ櫻島ノ爆發或ハ東北ノ不作デアアルカ、或ハ最近ニ現ハレタ九州ノ大雨デアアルカ、是ハ物理學ノ範圍デアツテ、如何ナル政治家ガ現ハレマシテモ、支那ノ舊思想ニ囚ハレテ居ル人々ヲ除イテハ現在之ヲ政治家ノ支配スベキモノマデニ入レルト云フコトハ、餘リニ古ルキ東洋思想ニ囚ハレタルトコロノモノデアツテ、恐クハ大岡君自身モ左様ニ信ゼラレテ居ラヌト思ヒマスガ、若シ愚ナル人ノ感情ニ訴ヘルト云フナラバ、大正三年ニ於ケル日本帝國ノ國民ヲ餘リニ低ク見ラレルトコロノ失禮ナガラ言論デアラウト思フデアリマス、更ニ不景氣ガ甚ダシクシテ人心安カラズト言ハル、ガ、如何ニシテ此不景氣ガ現ハレタノデアアルカ吾輩ハ茲ニ斷言ヲ致シマス、戦後ノ經營ヲ過テテ殃デアアル、積極政治ト稱シテ猥ニ愚ナル人ノ意ヲ迎ヘテ種々ノ事業ヲ企テタ其反動デアアル、限リ無ク國債ヲ起シテ一時ノ景氣ヲ煽ツタル其反動デアリマス、是ハ原因過去ニアツテ現在ハ其結果ニ惱ンデ居ルノデアリマスカラ、恰モ「アルコール」中毒者ガ名醫ノ手ニ依ツテ、一時「アルコール」ヲ禁ゼラレタ時ニ、衰弱ヲ覺ユルト同ジコトデ、是ハ醫者ノ罪ニアラズシテ嘗テ不養生ヲ爲セシトコロノ積極政略ヲ執ラレタル諸君ノ責任ト思フ今ニ方ツテ之ヲ治療スルニ尙ホ「アルコール」ヲ注入セントスルガ如キ、積極政治ヲ行ハントシテ尙ホ外債ヲ限リ無ク募ラントスルト云フナラバ、之ニ向ツテ確タル御答ハ恐ラクハ多數ノ御方ノ中ニ一人モナイト私ハ思ウテ居リマス、之ニ向ツテ殆ド兒戲ニ類シタルトコロノ説ハ泣言ニ過ギヌト私ハ思ツテ居リマス、其他種々ナル點ニ涉ツテ評論ヲ下シテ見レバ、先ヅ大略此類デアリマスカラ、私ハ一々之ヲ論評スルノ煩ヲ避ケマスルガ、併ナガラ根本ニ遡ツテ私ハ大岡君ニ問ハウト思フ、斯クマデ内閣ヲ輕ンジテ内閣ノ政略ヲ非難セラル、ナラバ、現ニ多數ヲ擁シテ御居デノ御方デアアルカラ、此内閣ニ大事ヲ決定セシムルノ御不安トセララルナラバ、何故ニ不信任案ヲ提起セラレザルカ、進ンデ不信任案ヲ提出スル能ハズ、過去ノ過チヲ現在ノ過チノ如ク附會ヲ爲シ、政治ノ範圍ニ屬セザルトコロノ天然ノ範圍ヲ人事ノ如ク曲解シ、之ヲ以テ愚

カナル人ノ感情ニ訴ヘントスルノハ大正三年ニ於テハ餘リニ幼稚ナルトコロノ言論デハナイカト私ハ思フノデアリマス、ソレ故ニ私ハ此所デ要求スルノデアリマス、尙餘地ガアルノデアリマスカラシテ、此緊急必要ナルトコロノ政府ノ原案ヲ可決シタル後モ、尙此論法ヲ續ケテ不信任案ヲ提出セラル、ノナラバ、私ハ此議場ニ諸君ト相見エテ其雌雄ヲ決シヤウト思フノデアリマス、諸君ハソレヲ爲ス能ハザレバ、此内閣ニ信任セラレタノデ、實ハ信任ヲ爲スガ又原案ヲ可決スルガ、何カ論評ヲ加ヘナケレバ甚ダ物寂シク感ゼラル、ガ故ニ、斯ノ如ク不理論ノ言辭ヲ爲サレルノデアラウト私ハ思フノデアリマスカラ、吾々ハ事實ヲ是認スルト同時ニ、現内閣ヲシテ之ヲ決行セシムルノ信任アリト認メテ、信任ノ屬シテ居ルトコロノ原案ノ可決ヲ私ハ提起致スノデアリマス

次テ早速整爾君ハ本案ニ賛成ノ意ヲ表シ直ニ採決ニ及ヒ全會一致ヲ以テ之ヲ可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ六月二十八日可決奏上シ七月一日公布セラル

## 第二款 本院提出法律案

### 輕便鐵道補助法中改正法律案

輕便鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條 輕便鐵道ニ於テ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ一年五分ノ割合ニ達セスト認ムルトキハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ營業收入ノ營業費ニ不足スル金額ニ對シテハ之ヲ補給スルコトヲ得ス



前項ノ建設費、營業費、營業收入及益金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

第四條 削除

第五條 削除

三年六月二十二日白川友一君外十六名提出、同日提出者ヨリ之ヲ撤回シ翌二十三日更ニ提出セリ  
同月二十六日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(白川友一君)ハ左ノ如ク其ノ趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ現行ノ輕便鐵道補助法ヲ、諸君ノ御手許ニ配付サレテ居リマスル通り改正致シマスルノ  
デゴザイマス、本案ノ改正ノ理由ハ既ニ三十一議會ニ於キマシテ上下兩院デ盡クサレテ居リマ  
スカラ、此席デハ略シマス、唯一言特ニ申シテ置キマスノハ、本法ノ改正前ニ許可ヲ得マシタ  
モノニ對シマシテモ、政府ハ開業後十年間ハ補助シ得ルコトハ勿論、又補助ヲスルコトヲ當然  
ト認メテ居ルノデゴザイマス、又本法ノ改正前ニ補助ヲ受ケマシタモノニ付キマシテモ、尙第  
四條削除ノ結果、當然償還ノ義務ヲ免カル、コトモ、勿論含ンデ居ルノデアリマス、而シテ本  
案ハ三十一議會ニ於キマシテ、滿場ノ諸君ノ御賛成ヲ得マシテ通過シテ、之ヲ貴族院ニ送リマ  
シタノデアリマス、當時貴族院ニ送付スルニ當リマシテ、現行ノ附則ヲ附ケテアリマシタノデ  
アリマス、其現行ノ附則ヲ附ケル必要ノナイモノヲ附ケテ居リマシタタメニ、貴族院ニ於テ  
レヲ削除サレタノデアリマス、尙「一年五歩ノ割合ニ達セサルトキ」ハトアリマシタノヲ「達セ  
スト認ムルトキハ」ト二字ヲ削除致シマシテ五字ヲ記入致シタノデアリマス、サウシテ此改正  
ノ趣意ヲ明確ニサレマシテ、三月二十三日貴族院ニ於テハ滿場一致ヲ以テ通過サレマシテ、サ  
ウシテ當院ノ方ニ回付ニナリマシタコトログ、皆様御承知ノ通り其當時丁度回付ニナリマシタ  
ト同時ニ、停會ノ御詔勅ガ降下サレマシタ、サウシテ其停會中ニ會期ガ盡キマシタタメニ、議

了ニ至ラナカッタ案デアリマス、本改正案ハ邦家ノ爲メ事業者ノタメニ甚ダ急ヲ要スルモノト  
認メマシテ、提出致シマシタ所以デアリマス、ドウカ滿場一致ヲ以テ御賛成ヲ願ヒマス  
次テ松田源治君ノ動議ニ基キ直ニ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ可決セリ即日貴族院ニ  
送付、同院ハ六月二十八日可決奏上シ 九月一日法律第四十一號ヲ以テ公布セラレ

第三款 上奏案

開院式 勅語奉答文案

三年六月二十二日本院ハ開院式ニ賜ハリタル 勅語ニ對シ直ニ奉答文ノ件ヲ院議ニ付シ議長指名  
ヲ以テ起草委員ヲ設ク起草了ルヤ會議ヲ再開シ委員長元田肇君ハ「本員等奉答文起草委員ニ御指  
名ヲ蒙リマシテ、委員一同議長室ニ參集致シマシテ、委員長ニ不肖、理事ニ花井博士ガ當選致シ  
マシタ、慎重ニ奉答文ノ起草ヲ審議致シマシタ、而シテ唯今朗讀スルヤウナ起案ヲ致シマシタ、  
朗讀致シマス(奉答文ハ第一章ニ掲グ)……………」ト報告シ奉答文案ヲ朗讀ス總議員起立敬意ヲ  
表シ全會一致ヲ以テ可決シタリ

第四款 請願

(議院法第六十四條第  
二項ニ依レルモノ)

請願委員ハ大正三年六月二十三日ヲ以テ之ヲ選舉ス委員ハ同日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ其ノ審



查ニ著手シタリ

請願委員會ニ於ケル審査ノ結果ハ第六章第一節ニ摘記セルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス  
請願特別報告ノ討議及表決ハ左ノ如シ

三十八

軍人恩給法中改正ノ請願外八件(特一乃至九)

三年六月二十五日報告、同月二十六日一括シテ院議ニ付シ理事武滿義雄君ハ左ノ報告ヲ爲ス

諸君私ハ委員長ニ代リマシテ請願委員會ノ顛末ノ報告ヲ致シマス、請願委員會ハ昨日午前ニ總會ヲ開キ當院ニ於テ受理シタル請願二十件ヲ審査結了致シマシタ、其中十一件ハ相當ナル理由アルモノトシテ採擇スベシト云フコトニ決定ヲ告ゲ、其外ノモノハ參考トシテ政府ニ送付スルト云フコトニ決定致シマシテゴザイマス、今茲ニ各件ニ付テ報告ヲ致シマスルニ當リマシテ、之ニ説明ヲ加ヘ、其内容ヲ明カニスベキデゴザイマスルケレドモ、既ニ報告書ナリ文書表ナリガ御手許ニ回ツテ居ルノデアリマスカラ、私ハ其煩ヲ避ケマシテ、請願ノ名稱ト紹介議員及請願者ノ氏名ヲ此所デ朗讀ヲ致シマシテ、而シテ終リニ其顛末ニ付テ御話ヲシヤウト思ヒマス、第一ハ軍人恩給法中改正ノ請願、請願人ハ東京府深津龜吉外二十一名紹介議員ハ漆昌巖君、第二ハ東京府赤沼定一外二十二名呈出、紹介議員ハ高木正年君、是モ同様軍人恩給法中改正ノ請願デアリマス、第三、軍人恩給法中改正ノ件、東京府森延之助外十四名呈出、紹介議員ハ村松恆一郎君、特別報告第五號、軍人恩給法中改正並同法ニ基ク遺族扶助料下附ノ件、請願人ハ德島縣細川源太郎呈出、紹介議員ハ大久保弁太郎君、特別報告第二號、日露戰役擊沈船被害救恤ノ請願、請願人ハ朝鮮運送業堀力太郎呈出、紹介議員ハ大橋松二郎君、特別報告第三號、田畑地價修正ノ請願、請願人ハ静岡縣河井重藏呈出、紹介議員ハ高柳覺太郎君、特別報告第四號、狩獵法改正ノ件、請願人ハ静岡縣河井重藏呈出、紹介議員ハ高柳覺太郎君、特別報告第六號、航空事業

ニ對スル國庫補助ノ請願、請願人ハ東京市法學博士男爵阪谷芳郎呈出、紹介議員ハ田川大吉郎君、特別報告第七號、專賣鹽特別定價賣渡及交付金下附規則改正ノ件、請願人ハ愛知縣杉江嘉左衛門呈出、紹介議員ハ鈴置倉次郎君外二名、特別報告第八號、山陰線德佐隧道工事急速著手ノ請願人ハ島根縣原新七外七十名呈出、紹介議員ハ恆松隆慶君、特別報告第九號、鐵道線路踏切ニ關スル請願、請願人ハ静岡縣富田喜兵衛外五十名呈出、紹介議員ハ箕浦勝人君外一名、以上唯今朗讀致シマシタル各請願ハ、請願委員會ニ於テ相當ナル理由アルモノトシテ採擇ト云フコトニ決定ヲ致シマシタ、特ニ軍人恩給法中改正ノ請願ニ對シテハ、年々議會ニ請願ヲ爲シ、其内容實質ニ於テモ深キ同情ニ値スベキ請願ナリトシテ、一日モ早ク此希望ノ徹底セラル、コトヲ希望スルト云フ下ニ採擇ト云フコトニ決定ヲ告ゲマシタ次第デアリマス、願クハ本院ニ於テモ滿場一致ヲ以テ請願委員會決定ノ通り決定アラントヲ希望致シマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇セリ即日政府ニ送付ス

第七章 質問及答辯

本會期中議員ヨリ政府ニ對シ質問ヲ爲シタル件數總テ五件ニシテ内、内閣ニ關スルモノ三件、内務及大藏ニ關スルモノ各一件トス左ニ其ノ質問及答辯ヲ列記スヘシ



一 輕便鐵道實測中止ニ關スル件

四十

大正三年六月二十三日根本正君外三名ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

政府ハ第三十一回議會ニ於ケル大正三年度豫算案委員會議ニ於テ當局者ヲシテ説明セシメテ曰ク「輕便鐵道費ノ中ヲ豫算ノ許ス範圍内ニ於テ幾分新線路ノ實測ヲ致ス考ヲ有ツテ居リマス是マテ既ニ決定サレテ居ルモノ以外ニソレハ大曲盛岡間、野邊地大湊間、米子野村間、鳥取智頭間ソレカラ北海道ノ音威子府稚内間、留萌增毛間、山形縣ノ山形左澤間、青森縣ノ河邊木造間、ソレカラ高知縣山田高知須崎間、ソレカラ大宮勝田間、(中略)本年度ニ於テ線路ノ實測ヲ致シテ置ク方カ宜カラウト云フ考テコサイマス云々」越テ本年五月一日鐵道院告示第三十二號及第三十三號ヲ以テ所管區域中ニ追加シ著々之カ實測ニ著手シ世人ヲシテ大ニ囑望セシメツツアリシニ拘ラス今回突然之ヲ中止スルノ舉ニ出テタルハ如何ナル理由ニ基クヤ

此ノ質問ニ對シ同月二十六日大隈内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

大曲盛岡間外九線路實測ノコトハ既定豫算ニ於テ豫見シアルモノニアラス故ニ政府ハ其建設資金ヲ得ルノ見込確實トナルニ至ル迄更ニ十分ノ調査ヲ爲スカ爲メ暫ク實測ヲ中止スルコトト爲シタルモノナリ

右ノ答辯ニ對シ同日根本正君ハ質疑ヲ爲シ仙石鐵道院總裁ハ書面ヲ以テ答辯スヘキ旨ヲ述ヘ翌々二十八日同總裁ヨリ左ノ説明書ヲ送付セラル

本年五月一日建設事務所所管區域ノ變更ヲ爲シタルハ姑ラク前内閣當時ノ計劃ニ依リタルニ過キス爾來慎重調査ノ步ヲ進ムルニ從ヒ既定豫算ニ於テ豫見セサル新線路ニ對シ實測ヲ爲スハ不穩當ニシテ且經費濫出ノ虞アルヲ認メ資金調達ノ見込確立スル迄其實測ヲ中止スルコトト爲セリ

二 租稅輕減ニ關スル件

三年六月二十四日三輪市太郎君外二名ヨリ左ノ質問ヲ提出シ同月二十六日其ノ趣旨ヲ辯明セリ

- 一 政府ハ減稅ヲナスノ場合ニハ何レノ稅目ヲ主トシテ減稅若ハ廢稅ヲナスノ方針ナリヤ
- 一 政府ハ地租ニ對シ輕減ヲナスノ方針ナリヤ果シテ然リトセハ其ノ程度如何

私ハ租稅輕減ニ關スル質問ヲ致シマス、然ルニ今日ハ此臨時議會ヲ開カレタル所ノ問題ノ豫算追加案ガ、議事日程ニ上ルト云フコトヲ聞キマシタカラ、其妨ニナラヌヤウ極メテ簡單ニ要領



ヲ質問致シマス、此臨時議會ガ開カレテカラ、此演壇ニ於テイロ、租稅論ニ就テ論ゼラル、所ヲ拜聽致シテ居ルノニ多クハ營業稅問題ヲ主トシテ論ゼラル、如クデ、地租若ハ織物稅ト云フガ如キハ從タルモノ、ヤウデアアル、ソコデ同志會ヨリサウデナイト云フコトデアリマスレバ私モ満足スルガ、兎ニ角茲ニ政府ニ第一ニ御尋ネシヤウトスルノハ、今日營業稅ノ議論ガ朝野共ニ喧シイ所カラ、此所ニ民力ヲ休養スルニ當ツテ、先以テ營業稅ト云フモノヲ處分シテ、其餘リガアツタ場合ニハ或ハ織物稅トカ若クハ地租トカ云フモノヲ輕減スルノ御方針デアアルカ、或ハ國民ノ負擔ト云フコトノ均衡ヲ保ツ上ニ於テ、同時ニ此輕減ヲ圖ラル、モノデアアルカト云フコトヲ先ヅ第一ニ御伺致シタイ、イツモ現政府ハ調査ノ理由ノ下ニ答辯ヲ避ケラル、サリナガラ大方針ヲ承ル上ニ於テハ調査ノ必要ハナイ、方針位ハ分ツテ居ラヌト云フ筈ハナイ、程度トカ數量ト云フ場合ハ調査ノ必要モアルガ、唯大方針ヲ私ハ尋ネントスルノデアアル、ソコデ此營業稅ニ就テ廢稅カ若クハ減稅ニ止メラル、カト云フコトハ、調査ヲスルト云フコトデアアルカラシテ、此點ニ於テハ私ハ聽キマセヌガ、假リニデス、假リニ不可能ノ場合ニ於テハ、幾分減スルト云フ場合ニ於テ、之ヲ唯都會ニ於テ而モ電話ナリ、若クハ水道ナリ、政府ノ保護ニヨリ便利ヲ得ルノミナラズ、其他選出議員ノ人員比例ノ如キ特權ヲ有スル市内ニ住居シ、而モ巨萬ノ富ヲ持チ、巨萬ノ資本ヲ以テ經營シテ居ラレル所ノ營業者モ、山間僻地ニ於ケル所ノ僅ニ資本トシテハ制限ノ最少限度——課稅セラル、ニ標準ノ最大限度ノ千圓ニ充テルガ如キ、而モ草鞋掛デ飛ビ歩ク所ノ營業者ニ對スル課稅モ、減稅ノ場合ニハ之ヲ同一視シテ同ジ稅率ヲ以テ減ゼラル、方針デアアルカ、或ハ茲ニ郡市ノ區別ヲシテ、郡部ノ營業者ヲ全廢スルカ、若クハ前内閣ニ於テハ二千圓迄ノ賣上金ヲ全廢シタガ如ク、之ヲ三千圓若クハ五千圓、其數量ハ決シテ此所デハ要求ハ致サヌガ、兎ニ角下級ノ營業者ヲ救フト云フノ主旨ニ依ツテヤラル、モノカ、此輕減ノ場合ノ執ラレル方針ヲ第二ニ御尋シタイノデアアル、第三ニ御伺ヲ致シタイノハ是ハ少シク御聽キヲ願ヒタウゴザイマス、最モ是ガ重要ナル問題デアアル、現在ノ此地租ナルモノハ、諸君ノ御承知ノ如ク最モ多イ時代ニハ地租ハ五分五厘マデモ重稅ヲ負擔シテ居ツタ、所ガ二十七議會

ニ於テ八厘ヲ減ジ、三十一議會ニ於テ二厘ヲ減ジ、即チ一分ヲ減ジタト云フ事ハ此處デ言フ迄モナク諸君ノ御承知ノ通りデアアル、所デ此地租ナルモノヲ明治十七年ニ地租條例ヲ發布サレタ當時ハ百分ノ二箇半デアアル、所ガ其以後ニ於テ營業稅ナルモノハ明治二十九年ニ於テ初メテ營業稅ト云フモノ、稅目ヲ設ケラレタノデアアル、又其以後ニ於テ此地租ナルモノガ、三十一年ニ初メテ三分三厘ニ增稅ヲサレ、ソレヨリ三十七年ニ至ツテ五分五厘ニ增稅サレタモノデアアル、コデ此地租ニ對スル增稅ナルモノハ、百分ノ二箇半ト云フモノヲ先ヅ動カス可ラザルモノ、即チ地租條例デ動カス可カラザルモノトスレバ、增稅歩合ナルモノハ三分ト云フモノハ增稅ニナツテ居ル、其中デ八厘ト二厘、即チ一分ヲ減ゼラルルコトガ、即チ三分ノ一減稅ニナツテ居ルノデアアル、所ガ營業稅ハ三十一議會ニ於テ三割強ノ減稅ヲサレテ居ル、然ラバ是ガ地租ノ三分ノ一ト稍々同ジ割合ノ減額ニナツテ居ル、是ニ於テ此營業稅ナルモノヲ全廢セントスル場合ニハ、營業稅モ資本稅ナラバ地租モ均シク資本稅デアアル上ハ、地租ナルモノニ對シテモ均シク全廢スルガ至當デアアル、然レドモ既ニ百分ノ二箇半ト云フモノハ農民ガ承諾ヲシテ居ルカラシテ、是ハ農民ガ數歩讓ツテ百分ノ二箇半ハ茲ニ覺悟ヲシテ居ルカラ、是ダケハ負擔ヲ爲サシムルトシテモ、營業稅ノ全廢トノ均衡ヲ保タウトスレバ、即チ百分ノ二箇半マデ減ジテ可ナリト本員ハ思ヒマス、然ルニ此點ニ於テハ、政府ハ營業稅ヲ全廢シタ曉ハ、此地租ナルモノハ如何ニ處分スルノデアアルカ、如何ナル程度マデ減ズルノデアアルト云フ度合ガ明言ガ出來マスレバ幸ヒ、若シ明言出來ザレバ兎ニ角現行ノ課稅標準ト云フモノハ、營業稅ト地租ト均衡ヲ保ツテ居ル、現ニ三十一議會ニ於テ地租ヲ二厘減ジタコトヲ、或ル一部ニ於テハアレハ言譯的デアアルトカ、種々ナ批評モアルガ、此二厘デ農民ガ甘ンジテ居ルノハ、即チ八厘ト二厘、一分デ營業稅ノ三割強ノ減額ト對照シテ稍々均衡ヲ保ツテ居ルカラ、二厘減ニ於テモ此ニ甘ンジテ居ルノデアアルガ、一方ニ營業稅ヲ全廢シ、而シテ當時世間傳フルガ如ク五厘ノ地租ヲ減ジヌデ置イタナラバ、平素農民ナルモノハ沈黙ヲ守リ、オトナシキ代リニハイザ怒ツタ場合ニハ、決シテ承知シマセヌゾ、此邊ハ政府ニ於テモ能ク御熟慮ノ上御處置ヲ願ヒタイ、幸ニ政府ノ御方針及此地租ニ對



スル度合ヲ御明言ヲ願ヘバ結構デアルガ、明言ガ出來ザルトモ大體ノ方針ハ此所ニ御答ガ出來ヌコトハナカラウト思ヒマス、殊ニ此頃中政府ノ御答辯ハ、兎角調査等ニ事寄セ、或ハ問題ニ依ツテハ防務會議、防務會議ナルモノハ質問攻撃ノ防務ニ使ハレル如キ嫌ヒガアル、ドウカ親切ニ此邊ハ御答辯ガ願ヒタイノデアリマス

此ノ質問ニ對シ同日若槻大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 負擔輕減ニ關シテハ目下調査中ニ屬ス隨テ何レノ税目ニ對シ減廢ヲ行フヘキカハ未タ言明ノ時機ニ達セス

一 前項答辯ニ依テ承知セラレタシ

三 滿洲ニ於ケル鐵道運賃政策ニ關スル件

三年六月二十四日秋田清君ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

一 鐵道院カ滿洲行連絡直通貨物ニ對シ一噸一哩一錢ト云フ極端ニ低廉ナル運賃ヲ以テ輸送ヲ開始セルハ如何ナル理由ニ基クヤ

一 噸一哩一錢ハ鐵道輸送費トシテ石炭代ニモ若カス斯ル極端ニ低廉ナル運賃ハ東西何レノ國ニモ例ナク亦古來ヨリ嘗テ聞カサル所ナリ聞ク所ニ依レハ本邦產業品獎勵ノ爲ナリト、單ニ此ノ目的ノ爲ナリトセハ比較的高率ナル南滿洲鐵道株式會社ノ運賃ヲシテ輕減

セシムルヲ可ナリト信ス鐵道院ノ此ノ運賃政策ハ自線及朝鮮鐵道局ノ輸送貨物ノ増加ヲ圖ル爲南滿鐵道ノ貨物ヲ吸收セムトスルモノニシテ明ニ滿鐵會社ニ對スル挑戰ト認ム更ニ一説トシテ安東縣國境關稅三分ノ一減ノ利用ニアリト爲スモノアリ是カ利用ハ可ナルモ南滿鐵道ニ壓迫ヲ加ヘ帝國鐵道ノ損害ヲ顧ミサルハ名ヲ利用ニ藉リテ却テ害用ノ結果ニ陷ルモノニ非スヤ

二 鐵道院ハ南滿洲鐵道株式會社カ地方運賃引下ケニ關シ是ニ制限ヲ加ヘ一割五分以下ニ止メシメタリト聞ク何カ故ニ斯ノ如キ干涉ヲ必要トスルヤ

交通運輸ノ發達ハ方今ノ急務ナリ故ニ運賃値下ケノ如キハ出來得ル限り低減スルヲ可トス故ニ國有私有ヲ問ハス其ノ會社ノ經濟事情ノ許ス限り是カ輕減ヲ獎ムルハ政府ノ執ルヘキ方針ト信ス然ルニ却テ南滿洲鐵道株式會社ノ地方運賃引下ケニ干涉シ其ノ發達ヲ阻害スル嫌アルハ如何或ハ傳フ自線及朝鮮鐵道局ノ貨物ヲ増加セシムル爲強テ南滿鐵道ヲ制肘スルモノナリト果シテ然ラハ區々ノ偏見ニ擁セラレテ國家ノ進運ヲ遮止スルモノト言ハサルヲ得ス

三 鐵道院ハ滿洲行連絡直通貨物綿絲布輸送ニ關シ同輸出商組合員ニ限り一噸一哩約三厘ノ割ヲ以テ割戻ヲ爲スト聞ク果シテ然ルヤ其ノ理由如何



滿洲行連絡直通貨物綿絲布輸送ニ關シ同輸出商組合員ニ限リ割戻獎勵ヲ爲スハ割戻其ノモノノ利害如何ヨリモ其ノ獎勵ノ偏頗ナルニアリ同商組合ハ種々ノ入會資格ヲ作り可否ヲ決スルモノナレハ同會員タルモノハ極メテ僅少ノ輸出商ニシテ多數ハ會員タルヲ得ス故ニ本割戻獎勵ハ一部少數ノモノヲ保護シ他ノ多數ノ同業者ヲ壓迫スルモノニ非スヤ

四 鐵道院カ前條ノ鐵道運賃政策ハ從來關東都督府及南滿洲鐵道株式會社カ滿蒙ノ開發貿易ノ促進ニ關シ根本政策トシテ經營セル大連中心主義ニ打格セリ政府ハ從來都督府及滿鐵會社ノ此ノ政策ヲ認メサルヤ若ハ今後此ノ政策ヲ放棄セムトスルモノナリヤ

從來關東都督府及南滿洲鐵道株式會社ハ滿蒙ノ開發貿易ノ促進ハ大連中心主義ニアリトシ凡テノ經營ハ此ノ政策ノ發現セル所ナリト聞ク現ニ都督府ハ其ノ旨ヲ一般居留民ニ知ラシメ滿鐵會社ハ海港特定運賃制等ヲ定メ是カ實際ヲ示セリ滿洲十萬ノ居留民ハ此ノ心ヲ體シテ十年ノ苦心經營ヲ積ミ今日大連ノ般賑ト商勢ノ進展ヲ計レリ然ルニ鐵道ノ運賃政策ハ此ノ根本政策ヲ破壞シ此ノ商業系統ヲ紊スモノナリ政府ハ從來都督府及滿鐵會社ノ此ノ政策ヲ承認セサルカ爲ナリヤ將タ亦今後ハ此ノ政策ニ據ル能ハスト認メタルモノナリヤ果シテ然ラハ從來巨萬ノ國費ヲ投シテ大連ノ經營ヲ爲セシハ誤謬ナル政策ニ基ケルモノトナスモノナリヤ

此ノ質問ニ對シ同月二十八日大隈內閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 政府カ滿洲輸出連絡貨物ニ對シ一噸一哩一錢内外ノ運賃ヲ設ケタルハ對滿輸出貿易獎勵ノ爲ニシテ此ノ程度ノ賃率ハ内外其ノ實例ニ乏カラサルノミナラス數年來實行シ來リタル朝鮮連絡輸送ニ於テモ略同一ノ運賃ヲ以テ輸送シ居リ國有鐵道ノ營業上ヨリ見ルモ損失ヲ來スコトナシ而シテ又南滿洲鐵道株式會社線内ノ運賃ハ大連、安東孰レヨリスルモ同一ナルヲ以テ同社ノ收入ニハ何等影響ナキモノト認ム

二 政府ハ南滿洲鐵道株式會社ノ地方賃率ノ引下其ノモノヲ制限セルニ非スシテ直通賃率ト地方賃率トノ間ニ相當ノ差額ヲ設クルコトヲ命シタルモノナリ蓋シ本邦各地ヨリ滿洲奧地ヘノ輸送ハ其ノ距離遠隔ニシテ大連其ノ他ノ海港ト滿洲奧地トノ距離ニ數倍シ是等兩輸送ノ間ニ其ノ賃率ニ差異アラシムルハ貨物ノ賃金負擔力及鐵道營業費賦課ノ諸點ヨリシテ賃金制定上ニ於ケル内外ノ恒例ナリ現ニ南滿洲鐵道通過ノ場合ニ於テモ更ニ遠距離ナル東清鐵道ト内地トノ輸送ニ於テハ安奉線經由ニ對シ今回特定シタル内地連絡賃金ヨリ更ニ低率ナルモノヲ適用シ來レリ故ニ今回直通賃率ト地方賃率ニ差等ヲ設ケシメタルハ是等前例ヲ踏襲シ内外鐵道ノ恒例ニ準據シタルモノナリ

三 綿絲布ハ我國對滿貿易品中最モ重要ナルモノニシテ數年來大ニ其ノ輸出數量ノ増進ヲ見タ



ルモ最近本邦粗製品ノ彼ノ地市場ニ現ハルルモノ少ナカラス殊ニ品質ノ統一ヲ缺クト荷造ノ不良ナルトハ鐵道輸送上並ニ稅關通過上支障少ナカラサルノミナラス滿洲市場ニ於ケル本邦製品ノ聲價ヲ失墜スルコト大ナリ然ルニ是等ノ弊ヲ除カムカ爲信用經驗アル貿易業者相計リ品質ノ統一、荷造ノ改良ヲ實行スルノ目的ニテ組合ヲ組織セルヲ以テ政府ハ同組合ニ對シ運賃ノ割戻ヲ爲シ之ヲ獎勵セリ而シテ之ヲ統計ニ見ルニ組合ニ加盟セル貿易業者ハ實ニ全數量ノ八九分以上ヲ取扱ヒ其ノ結果亦良好ナリ

四 鐵道院ニ於テ質問ニ係ルカ如キ事項ヲ實行シタルハ政府カ從來租借地及滿洲ノ經營ニ對シ取來リタル政策ト矛盾スルモノト認メス而シテ朝鮮鐵道及南滿洲鐵道安奉線ノ開通ニ依リ奉天以北ニ對スル別箇ノ通路ヲ開カレタルト安東ニ於ケル支那關稅三分ノ一減トノ結果貨物ノ輸送狀態ニ幾分ノ變化ヲ來セルハ自然ノ勢ナリト思考ス

四 家祿賞典祿處分事件ニ關スル件

三年六月二十五日恒松隆慶君外一名ヨリ左ノ質問ヲ提出シ翌二十六日其ノ趣旨ヲ辯明シタリ  
明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法ハ士族卒ノ祿高ニ對スル救濟ヲ目的トスルモノニシテ之ニ對スル政府ノ處分ハ明治三十八年十二月ヲ以テ終了セシモ許可ノ指令ヲ受ケタルモノ至

テ尠ク其ノ不許可ノ處分ヲ受ケ明治四十二年法律第二十一號ニ依リ行政裁判所ニ出訴セシモノ六百餘件ノ多キニ達セリ爾來今日ニ至ルマテ判決濟ノモノ甚タ少キニ拘ラス政府ハ行政裁判所ノ人員ヲ減少シ爲ニ愈々訴訟事件ノ延滞ヲ來セリ政府ハ該法律設定ノ精神ニ基キ救濟ノ目的ヲ達セシムルノ意思ナキヤ又此ノ如キハ明治三十年法律第五十號ノ精神ヲ滅却セルモノト思惟セサルヤ如何

諸君、此短期ノ臨時議會ニ於キマシテ、茲ニ質問ヲ提出シ演說ヲ致スナドハ、甚ダ諸君ニ對シテ恐縮ニ存ジマスガ、此質問ヲ致サネバナラス誠ニ愍ムベキ境遇ニ推移ツテ居ル問題ガゴザイマス、デ茲ニ已ムナクシテ之ヲ提出シ、極メテ簡單ニ其理由ヲ申述ベヤウト思ヒマス、抑々此問題ハ家祿賞典祿處分事件ニ關スル問題デゴザイマスガ、諸君モ御承知ノ通り是ハ殆ド二十年以前以來ノ問題デゴザイマスガ、ソレガ漸クニシテ此議會ニ於キマシテ、天下ノ各藩ノ舊士族卒ノ不當處分ヲ、恩典ヲ與ヘテヤルガ宜カラウト云フコトデ、曩ニ明治三十年法律第五十號ト云フモノガ制定サレマシテ、ソレデ家祿賞典祿處分ニ付キマシテハ、大藏省ニ臨時調査局ヲ置カレ、相當ノ豫算ヲ掲ゲ、全國ノ多數ナル此哀願ニ對シテ凡ソ處分ヲスルコトニナルト、一千萬圓位ナ公債ヲ以テ充テルト云フコトデ、其一千萬圓ニ對スル公債ノ利子、一箇年五十萬圓ノ金額ト云フモノハ年々豫算ニ現レマシテ諸君ガ御協贊ニナツテ居ツタ次第デゴザイマス、然ルニ其後日清戰爭ガゴザイマシテ、俄ニ方針ガ變リマシテ、不認可ノ御處分ガアツタヤウナ有様デ其恩典ニ與ツタモノハ僅々三十萬餘圓デアツテ、一箇年ノ利子五十萬圓ニモ及バヌ消極的ノ處分ヲ受ケ、總テ有利ナル請願ガ一括シテ不認可ニナツタヤウナ有様デ、實ニ其調査ノ茫漠タルコトニ付テ、多數ノ士族卒ノ多年ノ疾苦ヲ無ニサレテ愍然ナ有様デアリマシタ、ソコデ是ガ又



再ビ此議會ニ上ツテ、此以上ハ最早行政處分ノ道ヲ開クヨリ他ニ途ハアルマイト云フコトデ、本院ニハ私等ノヤウナモノデナイ、私等ハ唯二十年餘リ議會ニ勤績シテ居リマス故ニ、法律問題提出者等ノ關係ヨリ能ク承知シテ居ルノデゴザイマスガ、斯ウ云フ問題ニハソレノ専門ノ御方ガゴザイマスデ、其等ノ意見ヲ徴シマシテ、而シテ本會ハ全會一致ヲ以テ此行政處分ノ制定ヲスルガ宜カラウト云フコトデ、是亦法律ヲ議定シマシテ明治四十二年第二十一號ト云フモノデ、行政裁判ニ出訴スルコトノ途ヲ開ケタノデゴザイマス、而シテ之ニ依テ全國ノ士族卒モ非常ニ長イ間ノ問題デ困難ニ困難ヲ重ネマシテ、僅ニ其中デ六百餘件ト云フモノハ此處分未濟ノ不足ニ係ツテ、行政處分ノ方ニ持出シテ居ルノデゴザイマス、然ルニ是等ハ元ト特殊ノ恩惠的ノ法律ノ結果ヲ與ヘテ、出來得ル限リハ多年此苦痛ヲ感ジテ居ルトコロノ多數ノ士族卒ヲ幾分カ救フト云フ趣意ニ拘ラズ、又行政處分ノ道モ近來一頓挫ヲシテ、是ガ進行シナイト云フヤウナ有様ニナツテ居ルノデゴザイマス、固ヨリ多數ノ誠ニ立派ナル昔ノ誠心誠意武士道ノ非常ニ立派ナ人々ガ、此長イ間ノ事柄ニ付テ苦心ヲ嘗メ困難ヲ致シテ居ルノデゴザイマスデ、ドウカ政府ニ於キマシテハ是等ノ問題ハ他ノ問題ト違ヒマスカラシテ、ドウゾ誠心誠意、此特殊ノ恩惠的法律ノ效果ヲ得セシメテ、出來得ルダケ相當ノ處分ヲ速ニ解決ヲスルト云フヤウナコトニ、此政府ニ於テハ此方針ヲ執ラレルカ否ヤト云フコトノ詰リ質問デゴザイマス、此事ニ付テ長ク理由ヲ述ベタウゴザイマスケレドモ、此場合デゴザイマスカラシテ是等ヲ述ベマセヌデ、委細ハ此處ニ述ベムト欲スルトコロノ大體ノ趣意ヲ、速記ニ參考トシテ載セテ貫ヒタイト思ヒマス、ドウカ政府ニ於キマシテハ相當ノ御答辯……尙御答辯バカリデハイケマセヌカラ、之ニ對シテ速ニ處分ヲナシ、相當ノ請願者ニ對シテ恩惠ヲ與ヘルヤウナ途ヲ開カレムコトヲ、併セテ望ムデ置キマス

此ノ質問ニ對シ同月二十七日大隈内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲シタリ

行政裁判所ハ先年行政整理ノ結果評定官以下ノ職員ヲ減少シタレトモ裁判所ノ組織ハ從前ノ如

ク三部トシ又其ノ開廷日モ從前ノ如ク毎週三日トシ且從來其ノ一ノ部ニ於テノミ裁判シタル家祿賞典祿事件ヲ各部ニ配分審理セシメ裁判ノ進捗ヲ圖レルヲ以テ訴訟事件ノ延滞ヲ來タセルコトナシ從テ行政裁判所職員ノ減少カ明治三十年法律第五十號ノ精神ヲ滅却スルカ如キコトアルヲ認メス

五 北海道小樽區内公有水面埋立工事等ニ關スル件

三年六月二十八日東武君外三名ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

- 一 北海道小樽區有幌信香兩町地先公有水面一萬五百二十二坪ハ北海道地方費財源トシテ豫定セラレ又小樽區ニ於テ埋立出願中ナリシニ拘ラス今回突如之カ埋立權ヲ一箇人ニ許可スルニ内定セリト聞ク事實如何
- 二 樺太沿岸ニ於テ今回建網漁場三百七十箇所ヲ設定シ新ニ之カ解放處分ヲ爲スニ内定セリト聞ク事實如何
- 三 現内閣ハ地方黨弊刷新ヲ其ノ政綱ト爲スニ拘ラス今回北海道廳長官及樺太廳長官ノ更迭ヲ敢テシ前記二項ノ利權ヲ以テ其ノ與黨ニ與ヘ黨勢擴張ノ資ニ供セムトスルハ其ノ聲明ニ背反スルモノト認ム政府ノ所見如何



附  
録

此ノ質問ニ對シテハ政府ノ答辯ナカリシ



衆議院記事摘要附錄

目次

一	議會開閉ニ關スル一覽表	一
二	議案(請願特別報)經過表	一
三	質問及答辯	三
四	請願委員會議事經過表	三
五	請願呈出府縣別表	五
六	委員會表	七
七	本會及委員會速記事務一覽表	七
八	議事錄、決議錄並議事日程表	八
九	印刷物表	九
一〇	傍聽券及傍聽人員表	一〇
一一	院內警察執行事務一覽表	一〇



二

- 一三 文書及面會受付表……………
- 一三 委員氏名錄……………
- 一四 本院高等官氏名錄……………

### 衆議院記事摘要附錄

#### 一 議會開閉ニ關スル一覽表

回数	選舉	召集	開會	終了閉會	會期日數	開會日數
第十一	明治四十五年 四月十一日	大正三年 五月九日	六月二十日	六月二十日	同月廿二日	同月廿八日
	同 五月十五日	同 五月九日	同 六月二十日	同 六月二十日	同 同月廿二日	同 同月廿九日
					七	三日

#### 二 議案(請願特別報)經過表

##### 其一 上奏案、豫算案及法律案

件名	可決	撤回	提出者
開院式 勅語奉答文案	可決 (全會一致)		起草委員
大正三年度歲入歲出總豫算追加案	同 (兩院通過)		外白川友六一君
輕便鐵道補助法中改正法律案		〃	外白川友六一君
輕便鐵道補助法中改正法律案	可決 (兩院通過)		外白川友六一君

附錄 議會開閉ニ關スル一覽表 議案經過表



特別報告 數	件	名	採 擇
一	軍人恩給法中改正ノ請願外二件		三
二	日露戰役擊沈船被害救恤ノ請願		一
三	田畑地價修正ノ請願		一
四	狩獵法改正ノ請願		一
五	軍人恩給法中改正並同法ニ基ク遺族扶助料下附ノ請願		一
六	航空事業ニ對スル國庫補助ノ請願		一
七	專賣鹽特別定價賣渡及交付金下附規則改正ノ請願		一
八	山陰線德佐隧道工事急速着手ノ請願		一
九	鐵道線路踏切ニ關スル請願		一
計		一一	一一

其二 請願 (議院法第六十四條第  
二項ニ依レルモノ)

(備考)  
一本表件名中ニハ數件ヲ包含セルモノアルニ依リ採擇欄中ニハ特ニ件數ヲ掲記セリ

三 質問及答辯表

件	名	答		提出者
		口頭	書面	
輕便鐵道實測中止ニ關スル件		〃	〃	外根 本三 正君
租稅輕減ニ關スル件		〃	〃	外三 輪市 太郎君
滿洲ニ於ケル鐵道運賃政策ニ關スル件		〃	〃	秋 田 清君
家祿賞典祿處分事件ニ關スル件		〃	〃	外恒 松一 隆慶君
北海道小樽區内公有水面埋立工事等ニ關スル件		〃	〃	外東 三 武名君
計		四	一	

四 請願委員會議事經過表

附錄 質問及答辯表 請願委員會議事經過表



件名	經過	院議ニ付スヘシトスルモノ (特別報告)	院議ニ付スルヲ要セサルモノ (政府へ參考送付)	審査未了	計
小口保險實施廢罷ノ件					一
軍人恩給法中改正ノ件		四			四
國有林野特賣ノ件			一		一
日露戰役擊沈船被害救恤ノ件		一			一
鐵道線路河岸及海岸ニ於ケル堤防及勾配地ノ生産的利用ノ件			一		一
田畑地價修正ノ件		一			一
狩獵法改正ノ件		一			一
熱海線變更ヲ廢シ箱根ニ線路敷設ノ件			一		一
航空事業ニ對スル國庫補助ノ件		一			一
專賣鹽特別定價賣渡及交付金下附規則改正ノ件		一			一
勳章佩用ノ件			一		一
小學校教員俸給國庫支辨ニ關スル件			一		一
計					一

五 請願呈出府縣別表

件名	廳府縣	東京府	群馬縣	愛知縣	靜岡縣	秋田縣	島根縣	廣島縣	德島縣	朝鮮	計
酒造稅徵收猶豫ニ關スル件								一			一
鐵道線路踏切ニ關スル件					一						一
無限軌道普及獎勵ニ關スル件								一			一
山陰線德佐隧道工事急速著手ノ件					一						一
明治四十四年內務省令第十二號改正ノ件					一						一
計					二			九	一		二
小口保險實施廢罷ノ件		一									一
軍人恩給法中改正ノ件		三							一		四
國有林野特賣ノ件											一
國有林野ヲ賣却シ其ノ代金ヲ教育基金ニ編入シ其ノ利子ヲ市町村ニ交付セラレタキノ件						一					一
計		一				一					二











(備考)

一議員提出議案二件ナルモ中一件ハ印刷前撤回セラレタルヲ以テ本表中ニ算入セス

一〇 傍聽券及傍聽人員表

種別	配付		合計	傍聽
	通	臨時		
交際官	一五九	六	一六五	二一
貴族院議員				一四九
官吏	二七六	六九	三四五	一二五
公衆	二、二五六	五六七	二、八二三	一、八七四
新聞記者				二二三
計	二、六九一	六四二	三、三三三	二、三九二

一一 院内警察執行事務一覽表

項目	種別	件數
傍聽席ニテ冠物ヲ着シタルモノ		一二七
傘杖ノ類ヲ携帯シ入場セムトスルモノ		二三
特定ノ席ニ他ノ傍聽人ノ入りタルモノ		八五
席ノ前席ニ直立シテ他人ノ傍聽ヲ妨クルモノ		一七七
椅子ニ上リ傍聽スルモノ		一五一
傍聽人妄リニ廊下ヲ徘徊スルモノ		一三五
入場券又ハ通券ナクシテ院内ヲ徘徊スルモノ		三一
廊下其ノ他ノ場所ニテ通行ノ妨ケヲナスモノ		一五
傍聽席ニテ高聲ニ談話スルモノ		三一
酩酊シテ入場セムトスルモノ		一
傍聽席ニテ睡眠スルモノ		二七
新聞記者等許可ナクシテ事務室又ハ部室ニ入りタルモノ		一
商人等無鑑札ニテ院内ニ入ラムトスルモノ		五
計		八〇九

附錄 傍聽券及傍聽人員表 院内警察執行事務一覽表



項目	種	注		事		項	
		灰及芥捨場	室内、園内、厠、下水其ノ他不潔ノ箇所	携帶品ノ注意ヲ怠リタルモノ	無効傍聽券ニテ入場セムトスルモノ	火ノ元	飲食物ノ良否
計							
八、四八四							
二、六〇七							
五、〇〇七							
八七〇							
一三七							
二							
一八							
二七							
二七							
四六							
一七							

一二 文書及面會受付表

種	別	開		中
		件	日	
書狀	收受	八七〇	一	八七、〇
書狀	發送	五、〇〇七		五〇〇、七
面會	人	二、六〇七		二六〇、七
計		八、四八四		八四八、四

一三 委員氏名録

本會期中全院委員長、常任委員及特別委員左ノ如シ

○全院委員長

川原茂輔君

○豫算委員

委員長 井上角五郎君

理事

翠川鐵三君  
鈴木梅四郎君

柏谷義三君  
早速整爾君

秋岡義一君

第一部

井上角五郎君

秋岡義一君

若尾幾造君

田代進四郎君

翠川鐵三君

早川鐵冶君

小河源一君

第二部

中村啓次郎君

田中隆三君

床次竹二郎君

江藤哲藏君

中安信二郎君

黒須龍太郎君

守屋此助君

附録 文書及面會受付表 委員氏名録



第三部

清水市太郎君 戸水寛人君 小久保喜七君 横田孝史君 町田忠治君

第四部

高木益太郎君 片桐酉次郎君 澤 來太郎君 林 永太君 竹越與三郎君 岡田泰藏君 井上敏夫君

第五部

横尾輝吉君 小泉又次郎君 葉住利藏君 小山完吾君 板東勘五郎君 元田 肇君 本田恆之君

第六部

片岡直温君 早速整爾君 小川平吉君 岡崎邦輔君 則元由庸君 阿部徳三郎君 秋田 清君

第七部

鈴木梅四郎君 小山谷藏君 柏谷義三君 吉植庄一郎君 三浦覺一君 藏原惟郭君 島田三郎君

吉田圓助君 八田裕二郎君

第八部

上埜安太郎君 大岡育造君 伊藤要藏君 渡邊 修君 荒川五郎君

大石正己君 犬養 毅君

第九部

樋口典常君 三土忠造君 望月右内君 加藤政之助君 人見米次郎君

岡部次郎君 田川大吉郎君

○決算委員

委員長 板倉 中君 理事 申本康三君 一坂俊太郎君 井上篤太郎君 平野龜之助君 遠藤良吉君

第一部

木津太郎平君 光森徳治君 佐々木仙一君 安村竹松君 松村時次君

第二部

井坂光暉君 堀内啓治君 帆足隼太郎君 目黒孝平君 平野龜之助君

第三部

井深彦三郎君 相川久太郎君 須藤嘉吉君 菊池武徳君 山谷虎三君

附録 委員氏名録



第四部

藏内治郎作君 熊谷直太君 一坂俊太郎君 大森與三次君 森田小六郎君

第五部

井上篤太郎君 松浦五兵衛君 有馬秀雄君 矢島八郎君 風間禮助君

第六部

森川源吾君 高鍋篤郎君 金子圭介君 西英太郎君 山道襄一君

第七部

申本康三君 麓純義君 眞館貞造君 坂口拙三君 清水仁三郎君

第八部

森茂生君 板倉中君 武部其文君 狩野雄一君 奥山寛平君

第九部

遠藤良吉君 吉原祐太郎君 早川龍介君 加瀬禧逸君 大西五一郎君

○懲罰委員

委員長 横田千之助君 理事 伊東知也君 工藤吉次君

第一部

岩本平藏君

丸尾光春君 岩本平藏君 齋藤隆夫君

第二部

岸本賀昌君 早川六三郎君 國光五郎君

第三部

伊藤祐一君 野村嘉六君 菊池侃二君

第四部

工藤吉次君 岩田大中君 阪本彌一郎君

第五部

横田千之助君 木下成太郎君 山宮藤吉君

第六部

加藤新次郎君 細梅三郎君 清水隆徳君

第七部

根岸崎太郎君 伊東知也君 安田伊左衛門君

第八部

高嶺朝教君 大島寛爾君 高野金重君

附錄 委員氏名錄



第九部

高津仲次郎君 岡崎久次郎君 小西和君

○請願委員

委員長 長島鷺太郎君 理事 春田祐清君 武滿義雄君 大口喜六君

第一部

高島茂平君 鈴木巖君 佐野喜平太君 井上廣居君 伊藤英一君

第二部

大橋松二郎君 戸狩權之助君 水間此農夫君 井手三郎君 平山岩彦君

第三部

森田俊左久君 長島鷺太郎君 春田祐清君 加賀卯之吉君 杉山東太郎君

第四部

根本正君 武滿義雄君 小出五郎君 半谷清壽君 阿由葉鎗三郎君

第五部

若杉喜三郎君 廣澤辨二君 志々目藤彦君 大原義剛君 大口喜六君

第六部

本出保太郎君 津島源右衛門君 關信之介君 福田善三郎君 松本恆之助君

第七部

大久保弁太郎君 友常毅三郎君 渡邊國重君 林毅陸君 平出喜三郎君

第八部

瀬戸山清彦君 川真田徳二郎君 吉田定之助君 川上淳一郎君 豊福泰造君

第九部

福井準造君 佐藤信古君 鈴置倉次郎君 中山梅治郎君 才賀藤吉君

○開院式 勅語奉答文起草ノ件委員

委員長 元田肇君 理事 花井卓藏君  
大岡育造君 佐竹作太郎君 山本悌二郎君 福岡世徳君 島田三郎君  
片岡直温君 犬養毅君



一四 本院高等官氏名錄

書記官長

林田龜太郎

書記官

議事課長 寺田榮

警務課長 佐々田彰夫

委員課長兼速記 津久井利行

庶務課長兼圖書 辛島知己

附錄 本院高等官氏名錄







1854

大清三年五月三日  
大正二年六月一日

田原  
武  
田  
田原  
武  
田  
田原  
武  
田



14.3  
SVE



7  
6

4/



14  
5/1



